

京古本や往来

梅原 猛先生に聞く (二)

——三十号記念特集——

九月のある日、前田・竹岡・久保田の本誌編集部三人は、大渋滞の国道九号線を這うようにして京都の西端、洛西ニュータウンのその最西端に位置する京都市立芸術大学へ辿り着いた。

現代の京都学派を代表する梅原猛先生から、我々京都の古本屋のあるべき未来像について何らかのサジェスチョンを得られれば……という甘い期待をいだいて学長室へとお邪魔した。

先生が、どのような風土の中で本を読んでこられたか、また京都という土壌と先生の学問との緊張関係といったあたりからお話をお聞かせ下さい。

「私は仙台の生れで愛知で育ち、京都へ来たのは終戦の年、昭和二十一年に京都大学へ入ったんです。旧制高校で、東大へ行くか京大へ行くかという選択に立たされた訳です。

私は成績が良かったから(笑い)どこへでも入れたですね。もしも現実的に活躍しようと思ったら張り東大へ行くべきだろうと思つた。大体秀才は東大法学部コースで官界に入り、それから政界に出るというのがお定まりのコースだったけどね。私はそういうコースを踏むことを潔きよしとしなかった。当時の戦争の影響もありますけどね。真理を認識する人間になりたいというふうに思っていました。

当時、私の目の前にあったのが

季刊 第30号 京都古書研究会 発行

〒604 京都市中京区
東洞院六角上ル
京都府古書籍商業協同組合内
振替 京都 0-22132
年間購読料 500円
(送料込)
頒 価 150円

西田幾多郎という人だったんです。一生を思弁にささげたその人ですね。まあ、明治以降最大の哲学者ですね。その西田さんの哲学、というよりは生き方に惹かれた。そして京都へやって来ました。この世で大いに活動しようというのと、真理を認識しようというのと、大きな分れ目があるのではないですか。」

「京都へ来たのは、京都は学問に大変よい環境ではないかと思つたからです。つまり、国政の中心から離れていることで、直接政治の支配を受けない。何か思弁ということが出来る場所ではないかと思つたですね。」

「事実その頃の京都大学を見ますと、西田さんがいるんですね。それから内藤湖南という人がいた。河上肇さんがいる、若き日の湯川先生の名前もその頃から既に云われ出している。こういう非常に創造性豊かな学問を持った人達が京大にいてではないか、そこで学びたいというので来た訳です。」

「しかし、親父は私に出世させようと思つて、東大法学部に行か

せたかつたんで、京都の哲学へ行くこと云つたら、何かこれはヤクザになつたんでなかつたか(笑い)と思つたようですね。おふくろの方は、哲学というのは藤村操しか知らないしね、自殺するんじゃないかと(笑い)。」

「そういう、なんかこう墮落した、ヤクザになつちまうというかたちでしか見られない京大の哲学科を選んだのですけど、その選択は間違つていなかったと思つてます。」

——その頃京都学派といういわれ方はあつたんですか？

「京都学派というのは、西田さんを中心として和辻さん・和辻さんは東京へ行きましたが、和辻さんの思想形成の一番盛んだったのは京都時代ですね。それから田辺元さん、九鬼周造あり山内得立あり、若いところでは高山岩男、高坂正顕、西谷啓治、こうした人達を大体京都学派と名づけていたんですね。その雰囲気は憧れて入ったんです。」

私が入った時に田辺先生は停年になられて辞められて、そして高山先生が主任教授になられたんですけど、間もなく追放になって京都学派はゴッソリ変つたんです。けれど、私は追放になる以前から入っていたものの、多少異和感を持つていましたね。それはどうしてかと云うと、西田先生と田辺先生が絶対なんですね。その頃八

—— 祝 第9回 古本まつり …………… 京都古書研究会加盟店 ——

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------------------|-------------------|-------------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|--------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 赤尾 照文堂
中京区月形町六角下ル
電話二二一五八八 | 石川 古本
電話二二一五五五 | 井上 才書
左京区中京町一〇〇
電話八八二二二 | 其 中書
中京区河原町三三九
電話二二二二二 | 京 極書房
中京区下京町一七
電話二二二二二 | 沢 田書
上京区西京町一〇
電話二二二二二 | 三 密堂書
下京区西京町一〇
電話二二二二二 | シルヴァン書房
上京区西京町一〇
電話二二二二二 | (株) 善書堂
上京区西京町一〇
電話二二二二二 | 大 岡書
中京区下京町一七
電話二二二二二 | 竹 岡書
左京区西京町一〇
電話二二二二二 | 谷 方書
下京区西京町一〇
電話二二二二二 | 東 山書
左京区西京町一〇
電話二二二二二 | 萩 屋書
上京区西京町一〇
電話二二二二二 | 福 田書
上京区西京町一〇
電話二二二二二 | 藤 井書
上京区西京町一〇
電話二二二二二 | 文 庫堂
上京区西京町一〇
電話二二二二二 | 文 藻堂
上京区西京町一〇
電話二二二二二 | 八木書店古書部
中京区西京町一〇
電話二二二二二 | 山崎書店
上京区西京町一〇
電話二二二二二 | 徳川書店
上京区西京町一〇
電話二二二二二 |
|----------------------------------|-------------------|-------------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|--------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|

瀬の哲学茶話会というのがあって、高山先生を囲んでいろんな議論をするんです。田辺先生の『懺悔道としての哲学』が出たころです。そこで議論したんです。」

「田辺先生の非常に優れた思弁なんだろうけど、なんか全体が概念であって骸骨みたいな感じがする。何かちつとも肉がないみたいで、こういうのは一寸その、大きなからぶりみたいなものではないか、と云ったらね、尊敬する先生をそんな、骸骨みたいなもんだって云われたもんで（笑い）、まあ高山・高坂先生たちは大変に腹が大きい人たちですから直接云われなだけども、もつと若い先輩あたりから大いに怒られてね。一回生に入ってから来たばかりで生意氣なことを云うって叱られたんです。」

高坂先生なんかは、梅原君の云うように田辺さんの場合はまだいろ／＼と解明されない隠されたものが沢山ある。丁度僕等というのは高山・高坂先生たちが「西田先生の論理を補っているんな面を發展させて来たように、田辺先生の足りないところを君等が發展させたらどうか、と云われるんですね。その言葉は今でもはつきり私の頭の中にあるんですけどね、しかしその時は強烈な異相感を感じましたね。西田さんの魂つてそういうのではないんじゃないかと。」

西田さんが、近代ヨーロッパの

哲学の原理を全部否定して、全く新しい哲学を作ったように、われわれは新しくアルファから始めることが必要なんではないか。先生たちが云うように、田辺先生の哲学の一部を自分が補なえばいいというのには謙虚すぎるんじゃないか、田辺さんの骸骨哲学を補なうのなんかかわらんデ……なんて云って仲間と一語に帰って来て、大いに飲んでたんですけれどね（笑い）。

偉大な先生がおられると、継承して行くことばかりとらわれている……

「それ以来、私の態度は一貫しているけれど、当時の先輩たちから見れば、入ったばかりで大変大



話されるうちにどんどん熱が入って……

梅原猛学長

きな顔をした奴だと、コラいいかげんにしろというふうにとられたでしょうね。それから西田先生のあとの京大の哲学者たちは、今度は西洋哲学を勉強すればいいんだ、

そんな独自の哲学なんか止めてカントをプラトンを解釈すればいいんだといういき方だったですね。そういう人達からも離れたんで、大変孤独な道を行かざるを得なかった訳です。」

「田辺なんて骸骨で、西田なんかもたいしたことないデ……なんて大きなこと云うと先生方は頭にくる訳や。それでいて梅原はさっぱり勉強せんやないかと。そういう孤独の中で、今に新しい思想を出したと思うていても、仲々独自のものなんか出えへん。私の中における真の哲学への要求が、現実の仕事となつて出てこない訳でね。そんなんで二十代から三十代は大変苦しい時代でしたかね。」

そういう時代で、自殺するような顔をして臨川書店に行つてね、親友にバカにされて又憂鬱になつて帰って来る（笑い）。見るからに臨川の親父さんは警戒したと思うんだよね。本でも盗まれるんじゃないかと（笑い）思つたんじゃないかな。そういう苦しい時代でしたかね。」

「それは、自分の中における真の哲学の在り方が、自分の仕事、方向が見つからない長い時期だったですね。やつと二十五才位からだんだん、自分の方向が明らかになつてきた。自分の新しい思想らしいものが出てきたのは四十代になつてからですよ。」

今秋天理図書館は「西洋人の見た日本」の見た日本マルコポーロからベリイまで」と題した特別展を同館にて開催する。この展覧会はすでに今春東京にて開催されたものであるが、天理図書館の開館五十五周年を記念して展示品をいくつか加えて開催するものである。

およそ七百年前、マルコポーロによつてはじめて日本のことが西洋世界に伝えられた。やがて始まつた大航海時代は西洋の東洋進出時代ともいえる。一六世紀中頃ポルトガル船とイエズス会宣教師の来日によつて日欧交渉の幕開けとなり、以来厳しい鎖国策がとられた江戸時代においても交流はつづけられ、ついにベリイの浦賀来航を契機として日本は近代化へと進むことになる。その間三百余年、キリスト教宣教師、長崎蘭館の人々、その他外交官、軍人、学者、文人、画家などさまざまな人々が西欧から来日した。彼等は日本の歴史、地理、言語、学芸、政治、宗教、風俗、産業など広範囲な情報を彼の地に伝えた。彼等の日本像は今日から見ても意外に新鮮で、興味深いものであり、そうした情報をもつた古刊本等は日本側に残らぬ歴史を補う貴重な資料を数多

天理図書館開館五十五周年

「西洋人の見た日本展」について

く含んでいる。

天理図書館は創館以来、東西文化の交流、殊に宗教伝道、学術探検、紀行、地誌といった主題の文献蒐集に力を入れてきた。今回の展覧会ではそれ等の中から西洋人の手になる日本関係文献資料をベリイまでに時代を限り、これに幕末明治初期の興味深いものを若干加え、目で見えて楽しめるものを中心とした図書、地図、地球儀、絵画など六十数点を展示する。

（天理図書館）

主な展示品

- マルコポーロ「東方見聞録」一五〇八年刊 イスパニア語訳本
- ピント「遍歴記」リスボン一六〇四年刊
- 「イエズス会日本通信」エポラ一五九八年刊
- カロン「日本大王国誌（写真）」



●アムステルダム 一六五二年刊
●ケンペル「日本誌」ロンドン

学派と云われる桑原武夫先生をはじめとする、京大人文研の人達とつき合いがはじまった。まあ、いわゆる旧制高等学校からはずれた一匹狼だった私がですね、上山春平さんなんかと知りあいになり、人文研の新しい京都学派の人達と結びついた訳です。桑原さんを中心に湯川さんと吉川さんとか今西さん貝塚さんとか、そういう人達がいる新しい京都学派と附合って、その先生がたに可愛がられた。先生がたはそれ／＼専門は違うんだけど、非常に創造的なものが好きでね、創造的な才能のある人間を可愛がるんだ。何か面白いものをやっている人間は連れてきて話を聞いてやろうという、特に湯川さんなんかね、そういう態度が強かったですよ。それで私たちは、そういう先生がたに甘えて勝手なことをやって来たということがあるんですよ。云つてみれば、私は戦前の京都学派と戦後の新しい京都学派と両方に関係があるんです。ですから、エロスは矢張り西田幾多郎から来ている。私が一番感動したのは、西田先生は午前中の一番頭の冴える時は思索して、昼から頭が疲れてから本を読むという話ですよ。普通の学者は反対なんです、一番頭の調子のいい時に本を読む。西田さんは違うんで、一番頭のぼつくりしている時は、汗水たらして思索して、それで昼から本を読むということなんですね。

西田さんは万巻の書を読んだ人ですけどね、本は全部を読んだ人はいんですよ。最後まで読んだのはほとんど無いんですよ。ずうっときて、ここで何かヒントがあるとそこから今度は自分の考えが展開してくる、そういう人なんです。そういう西田さんの思索のエロスに私は感動した。それを今でも手本にしているのです。」

「もう一つ西田さんから来ているものがある。東洋思想、日本思想の中に非常に深いものがある。今迄の日本の哲学者は、ほとんど西洋思想のみを勉強する。西洋思想だけがよろしいということに対して、そうじゃないんだと、東洋思想日本思想の中にむしろ今後の人類に有用な思想が隠れているというんでね。西田さんはそれを無絶対無というんですけどね、禅の思想によったんです。

これは森鷗外の言葉ですけどね、西洋だけだと一本足、東洋だけでも一本足だと二本足で歩かなきゃいけない。むしろ今迄の哲学者はほとんど一本足だった訳ですが、西田さんのように思想大系の組みかたは大変ヨーロッパ的だけど、その中心に日本あるいは東洋の思想を持ってきたというのは、日本ではごく僅かです。西田先生は二本足で歩いているけど、日本の哲学者の中では、そのような人はほとんどない。この点は私はずうっと西田さんを承けていると

思っていますね。」

「だけど基本的な考え方が違う。西田さんは、学問は西洋で東洋は体験だ。というのは禅の体験を西田さんはヨーロッパ哲学で論理化した。西田さんは東洋の本は禅以外あまり読んでおられない。そこが私と違う。

私はもう一べん東洋を学問的な認識の対象としなければいけないではないかと思う。そのことが一つ、もう一つは、禅だけが東洋の伝統ではない—仏教だけがと云ってもいいんだけど。東洋の思想にしても日本の思想にしても、もっと幅広いもので、それを禅だけで代表させてあやしまないというのはおかしいんじゃないか：この二つが西田さんとは違いますが、思弁のエロスは西田さん承けていると思いますね。」

——先生のお仕事を拝見しますと、どうも普通の哲学者の先生がたがなさっているやり方と違うように思えるんですが……。歴史や古代史の方へ行かれたり……

「そうですね。それはね、西田さんに対する一つの批判ですね。概念で世界は絶対無だとか絶対矛盾の己同一とか云うけれど、世界界をよく見ると、よく見えてから論理を決めると、最初論理があつて世界はこうだと云うんではなくて、もつと論理もなにもなしに世界を見てみるというのが、私の学生時代からの批判でした。モノにつ

一七七二年

- ティチング「日本の結婚と葬儀」
- パリ 一八一九年刊
- クルゼンシテル「世界周航記」
- ペテルブルク 一八〇九—一三年刊
- フィスヘル「日本について」
- ムステルダム 一八三三年刊
- シーボルト「日本」ライデン



また本展で見逃せないものは地図類である。いくつかの初期の地球儀の他に十葉の地図を出陳するが西欧における日本認識の変化が具体的にみる事が出来て興味深いものである。

- ミンスター「新諸島図」一五四〇年頃
- オルテリウス「東インド図」一五七〇年頃
- ティセラ「日本図」一五九五年
- ヤンソン「日本およびエゾ地図」一六五〇年頃
- レラント「日本帝国図」一七一五年頃
- シーボルト「日本境界略図」一八四〇年頃
- デュシエ「地球儀」一五九〇年頃

——案内——

開館五十五周年記念展「西洋人のみた日本」(入場無料)

十月十九日(土)～十一月十四日(木)、九時～十五時半

天理図書館(天理市杣之内町)
電話(西条)三二一五二(代)

か、芸術とか法律とか経済とかいふようなものが一杯あるんですね。そういうことをやらなやかんといいうことがだん／＼分つて来た。それが昭和四五年位からなんです。私の古代学というのは、そういう今でいえば一種の概念哲学から、もう一つモノの中に入ってきた。具体的な歴史や文学の中に入つて

来たんですよ。一寸入りすぎたんで、もう一ぺん思想の方へもどろうと思つてますけどね。それが四五年位からです。大きな転向だったんですね。」

——その頃京大人文研では共同研究といふことで、いろんなジャンルの先生方が集つて一つの研究をされることが多かったように思いますが……

「そういうことが鶴見俊輔さんあたりの影響だと思ひますね。既に京大時代からそういう考え方を持っていましたけどね。鶴見さんの『思想の科学』の運動に触れて、いつそうそういう考え方が強くなつて、一諸にいろ／＼やつて来ましたね。やつて来たんだけど、兎角今度は原理がなくなつてくるんです。鶴見さんなんかは違ふけどね。『思想の科学』の運動が行きづまったのは、そこには物だけがあつて原理がなかったことです。

それからもう一つは、マルクス主義ですね。このマルクス主義というものは、ぼくらの世代は誰もが影響を受けているんだけど、私の場合三十才に大きな影響を受けた。やがてマルクス主義のドグマに批判的になつた。政治とか経済とかを重視することを教えてくれたけど、あのドグマにはどうしてもついてゆけなかつた。しかし現実社会を、ただ思想だけで議論してもだめで、その思想がどういう形で現実社会と結びついて

いるかを明らかにしなければならぬことは、マルクス主義から学んだものです。

だから私の梅原古代学というのには、政治や経済とかがどこか出てくるんですね。」

私の美術書誌 (四)

文華堂 中山 善次

聚楽社

昭和三年に聚楽社を創立したその人、秋葉啓(ビラウ)は初め国立博物館の写真部に務めた、そこで東洋の古名画を見る眼を養つたことが彼が後に美術書出版を手がけるようになって博物館経験が大きな助けになった。そのあと高見沢木版社に籍をおいて、そこで出版諸般の実務経験を積んだ。彼は出版界に身を投じた昭和三年前後の頃、審美書院は大部の出版を続けていたし、大塚巧芸社、座右宝刊行会、七条憲三等の諸社は盛業を極めていた頃で経験の浅い彼が割り込んだ形になった。余程の覚悟と出版に新機軸を出さねば成功は覚束かない。出版活動はぼく二十五年間にその間戦争などで苦しい時季にも不屈の手腕を発揮し数々の大冊を出し続けて所期の目的を達し得たのは彼の明るい性格と誠実な人柄

(以下次号につづく)

梅原猛氏 大正一四年仙台に生れる。昭和二三年京都大学文学部哲学科を卒業。
現在京都市立芸術大学学長。

による。出版物は強い個性を押し通したもので、鑑賞方面と研究方面と両方をかねた半切写真を使用した大判の冊となつて現われた。障屏画、風俗屏風絵の図版に巾一メートル前後の折りたたみ図を多く採り入れている全く素晴らしい出来栄えになっている。豪華本とでも云うのでしようが、装幀に金をかける今の豪華本とは其の質を異にしている。秋葉氏の作つたものは内容は豪華なものばかりだが外装を凝つたものはない。出版物中二点ばかり例外はあるが装幀方面に金をかけなかった。彼は自家出版について口ぐせのように言つた「僕の作つたものは偽物は這入つたらん」、その人らしい自信を示した。数十人を擁する大きな出版社ではない。一個人の大奮闘である。昭和前期の美術書出版界の一大収獲である

聚楽社出版本

初期浮世絵選集 昭和三年

四月から始めて四年十一月六集を完結し一帙とした。田中喜作解説 図版九〇、罫五十二センチ、巾三十九センチ以下大型本是に準ずる

年中行事図帖 一帙

初期浮世絵選集の中から引き出した年中行事十二図を単行とした。慶長以前土佐派の作。

歌舞伎草紙絵巻 一巻 三年

江戸初期作、長巻原寸複製、田中喜作解説、尾張徳川家蔵

宋元名画集 三帙

昭和三年から同十三年までに、十七分冊発行した。正上六冊、正下五冊、続六冊、相見香雨、秋山光夫、田中一松、脇本榮之軒諸家の解説付、秋葉氏が最も力を注いだ出版物、総て古い時代日本に來た中国宋元画の名品、大型本



桃山時代障屏画図集 一帙 四年
全部折タタミ図版二〇、木版色摺
部分図三、秋山光夫解説 大型本
金碧装飾画集 八冊 五年
桃山時代の代表的障壁画四十七点

昭和十年完成、大型本
支那上代彫刻 三冊 五年

中国六朝唐時代の彫刻 大型本
名古屋離宮障壁画大観 二帙
風俗画花鳥画一三八図、昭和五十六年刊 解説付、大型本
畠香譜 一帙 六年

横河民輔蔵中国古陶磁図録

工藝

昭和六十九年
柳宗悦が主宰した定期刊行物、創刊号より第四十一号迄聚楽社が発行した、以下日本民藝協会に移り百二十号まで出した。



バンゴツホの生涯と精神病
式場隆三郎著 二冊 原色単色百
図本文一五〇〇頁 七年



古代埃及ギリシヤクレタ島壁面
選 一帙 大橋孝吉模写、原色十
六図、解説十二頁 七年

東山水墨画集 二巻 九一十一年

東山水墨画集



足利時代初期より室町末期に至る有名寺院の襖絵百三十図版、秋山光夫、田中一松諸家五名の解説付、十三回に分けて出版し、完成に三年を要した。大型本

日本農民建築 十六冊

石原憲治著 各冊図版二四、解説三十頁 昭和九一十八年刊

日本古楽面 一冊 十年

帝室博物館編 一四五図版 本文解説七四頁

石涛名画譜 六冊十一一十二年日本にある石涛作品十三点収録 図版五十五(色刷八図) 大型本

朝鮮名画集 一巻 十二年

図版五〇、大型本

木米名画譜 一巻 十三年

六集に分冊して発行 完成後映人とした。 図版五〇、大型本

乾山妙蹟譜 一巻 十五年

陶工乾山の画蹟をまとめた最初の図録 図版四〇枚 大型本

八大山人名画譜 一巻 十五年

日本にある八大山人の代表作を厳選して「在来の無責任な粗雑な複製と断然類を異にするを誇りとす

る」発行者の言葉の通り内容は優れている。先きの石涛名画譜と双璧を為す観賞図冊。五〇図大型本 玉堂琴士画譜 一巻 十五年 日本南画の大家浦上玉堂には偽物が横行している。この図録は正しいものを厳選している。水沢澄夫解説 七十五図、大型本

玉堂琴士画譜



石涛名画撰 一冊 十六年

先きに出た、石涛名画譜から七点三十三図を抜き出したもの、黄山八勝図、山水精品冊、清湘老人山水冊各帖全図が含まれる、大型本

新撰宗達派画集 一巻

十四年から十六年迄七集に分けて出版完成後映人とした。七十七図 秋山光夫、田中喜作、田中一松 諸家の解説付、大型本

李朝陶磁譜 磁器篇 一冊 十七年

田中豊太郎編 特装本は中国磁箋

を使った感じのよい装幀した本、このあと十九年並製本を出した。

埴輪美 一冊 十七年

野間清六編 解説図版五十六、

古代土偶は「にわ」を見る好図録

黄大痴富春山居図 一巻 十七年

中国元時代の作品、堂谷憲勇解説

煙霞帖 一冊 十七年

浦上玉堂画の名品、原寸複製

木米名画譜 一冊 十七年

陶工木米の作品集 五九図款識名印年譜も添へられている、並製特製の二種、十三年に出版された木米名画譜と併せ見ると便宜。

宋磁 一冊 十八年

小山富士夫編著 中国宋時代の磁器集 図版七八、本文三六頁

こに至つて戦争苛烈を極め、高級紙の配給も止まり、戦中戦後の苦難な時代に突入り、この間ほぼ五年間は出版活動をやめている。

墨蹟資料集 三冊 廿四年

国立博物館編 六〇枚玉村竹二解説、中国日本の禅林高僧の墨蹟を集めたもの。

普動坐禅儀 一冊 廿七年

永平寺蔵の国宝、道元天福元年自筆本、宋時代の模様入りの料紙に書かれている。古田紹欽編集解説

毘嵐巻 一冊 廿九年

常盤山文庫に所蔵する、中国宋元時代、鎌倉時代高僧の墨蹟四四点 田山方南解説

八大山人画冊 二冊 三十年

山水花鳥併せて三十図鈴木敏解説

禅林墨蹟 二冊 三十年

中国禅林一〇三点日本禅林九〇点 田山方南解説一冊、先きに審美書院で此種の墨宝集を出したが収録点数は七十点に過ぎなかった。本冊は規模の大きな事業であった。

猶あとに続二冊、続々二冊が出て巨冊が完結した。三百部限定大型本、禅林墨蹟を好んだ彼の出版活動の最後を飾るにふさわしい出版となった。

金冬心仿宋元八大家集 三十二年

橋本閑雪蔵、金箋に描かれた美麗な冊子。

宋元名画 三十四一三十六年

牧谿梁楷玉潤を集めた一冊、花卉翎毛篇一冊 山水篇を加へ全部四冊を出した。先の宋元名画集の抜粹である、五百部出版したが好評だった。松下隆章、鈴木敬両氏の解説付。

聚楽社秋葉啓氏の仕事はこれで終る。昭和三年に始まつて戦争中出版活動を停止した五年をのけると実動二十八年間に三九八点を作りあげた、特殊な分野である美術書の出版屋としてもこの点数は年数の割に少ない。戦後の彼は振はなかった。その原因は美術本の廉価版が多すぎた。堰を切った様に我も我もと大量出版の世相を呈し君の良心的少数数主義と相入れなかつた。戦前の仕事は自分の好きな方面を大胆に押し上げた。宋元名画集の完成、桃山障屏画の一連の

数点。この時点で未だ曾つて無かつた東山水墨画集の完成、中国清時代初石涛、八大二大家の連作どれをとつても丹精を込めて造り上げたものばかり、その人となりを想像出来る、一点一点に重みがある。出版使命を十分に果している。大型の出版物は二〇〇部か二五〇部どまりの限定版、是等を自力で捌いた。堀江源吾氏の如き強力誠実な外交販売人を持ち二百部をこなすに日数がかからなかつた。それでも本が出て二年ばかり後残っているのを重いのもいとはず持ち込んで見えた。五部だけ残っている、あとは作らんから買つてくれ給へ。こちらにも既に何部か売つたあとの事でもあつて、多少ためらつたが、彼の申し出はいつても受けた。元氣に往来した君の姿が鮮明にうかがひ上ってくる。それから半世紀近くを過ぎようとしている。昨日今日の様に思へる秋葉氏の元氣あふれる姿はなつかしい。君は三十八年二月十二日市川市の宅に於て惜しくも病歿した。七十二歳だった。

「私の美術書誌」は中山善次さんに四回にわたつて連載していただきましたが、以降の美術出版については筆者が現在資料整理中のため、しばらく休載させていただきます。



(編集部)

聞きがき

「昭和古本販売史」(四)

昭和図書館と典籍講座

昭和三年、京の書籍界に一つのシンボルが誕生した。昭和図書館である。これは京都の新聞本の小売商組合(当時は京都書籍雑誌商組合)が建設したものである。

「新刊本組合が図書館なんぞ建設しては、商売が上つたりではないか」と心配したくもなるが、「本に親しんでもらうてこそ本が売れる」と当時としては先進的なネライがあったという(「京都書店会館竣工記念誌」昭和四十八年による)。

京都はすでに明治五年に河原町二条の書店大黒屋太郎右衛門の呼びかけで、日本最初の近代式図書館といわれる集書会社が、そして数ヶ月後には府立の集書院が建てられている。この歴史については稿を改めねばならないが、ともあれ京都の書肆にはこうした進取の精神が潜在していたのであろう。さてこの昭和図書館の建設の経緯や施設について「京都図書時報」及びそれが昭和四年一月号より改題された「昭和図書館時報」を繰ってみよう。

京都書籍雑誌商組合(以降便宜上新本組合と称す)は大正十二年

今上陛下の御成婚を祝し、資金十万円で十ヵ年計画にて記念図書館を建設することを決議した。実行に移って間もなく大正天皇が崩御、昭和天皇が即位され、昭和三年京都において御大礼の式典が挙

行されることとなった。そこで名称を御成婚記念から御大礼記念昭和図書館と改め、計画を半分に早めた。十年計画を半年の時期に短縮することを可能にさせたのは資金面で京都古書組合(当時会員百七十三名であり、多くは新古兼業者で新本組合にも加入していた)のバックアップが大きい力となった。京都古書組合は大正十三年に結成され事務所を丸太町川端東入進文堂に置いていたが、爾来独立した事務所を持つべくその建設資金を蓄積していた。それを昭和図書館に古書組合事務所を併設することを条件に融資したのである。

さてこの昭和図書館は初め円山公園内に借地する見込であったが、適地がなく、御池通河原町東(現京都ホテルの東斜向いにあたる)の元京都府知事植村正直旧邸を買収した。明治の新体制において、

全国で最も早く小学校を誕生させるなど行政に教育第一主義を唱えた知事の旧邸に、文化のシンボルが建設される因縁に誰もがその前途を喜んだ。

敷地九五坪、建坪六十七坪半、総額の純日本式二階建御殿造り、(写真)二百人を収容できる建物で総経費六万二千元の内建設費はその半分三万円であったと報告されている。



昭和図書館全景

この図書館は御大礼の昭和三年十一月三日に竣工式を迎え、新古両組合が並んで事務所を開いた。

しかし図書館の創館は翌年、即ち昭和四年十一月三日である。京都帝大図書館新村出館長、京都府立図書館長など来賓を迎え華やかに開館式が催された。

初代昭和図書館長となった新本組合の長老東枝吉兵衛氏はその祝辞の中で「本館ノ目的ハ普通新聞図書ヲ一般公衆ニ最モ簡易ニ最モ

自由ニ開放スルコトヲ主眼トシ現ニ陳列書架ノ如キモ閲覧室ノ周圍ニ設ケ自由ニ選擇シ以テ閲覧者と本図書館トヲ親シミ深ク恰モ市内ノ一般書籍店ニ於テ閲覧スル気分ヲ以テ開放シタイト思ヒマス」と述べこの図書館を気軽に街中の図書館として位置づけた。

また京都府立図書館長北畠貞顕氏は同式典の式辞に「設立以来相当地ノ年月ヲ経タ図書館ハ何レモ古書珍籍ヲ所蔵シテ居リマシテコレハ随カニ大切ナモノニハ相違アリマセヌガ現代ト融離シ時勢ニ適合セヌガ為メ往々ニシテ書架ノ煩累トナルカノ感ガアリマス。然ルニ当館備付ノ図書ハ発行後年所ヲ経ザルモノ多ク何レモ読書子ニ歓迎セラレ架工ニ午睡ヲ貪ルモノ少カルベキト同時ニ日々出版セラレル図書印刷物ハ油香去ラザル間ニ続々増加セラレ待テ暫シナキ現代ノ人心ヲ満足セシムルコトヲ得ベシト考ヘマス」と述べられたことから知られるようにこの図書館の蔵書は主として新本を中心に構成されていた。

開館時の図書数は三部の出版社や新聞書店よりの寄贈本三三二八冊、基本図書として購入したもの三三五冊であった。開館以後も寄贈本はつづき蔵書数は増加している。古書組合側は「図書購入費として百円を寄贈した他、新刊にて購へざる基本図書は古書組合より購入力に付き便宜を計ることにし

た」と同時報に進文堂木村徳太郎氏は語っている。この便宜とはこの会館の二階で開かれる古書市で入札の最低価格で納入したことを意味している。

私立の図書館故に閲覧は有料で一冊三銭、十冊二五銭(有効六ヵ月)で七冊の借出しが許された。同時報六三・四号(昭和四年十一月・十二月刊)には開館以来一ヶ月の入館者が記録されているが、平日数十名、日曜五十数名で、貸出冊数は最高一日一八五冊とある。



昭和図書館一階閲覧室

当時の閲覧者層について京都古書組合の長老(現相談役)の前田菊雄氏(キクオ書店)は「交通が非常に便利なわりに存外静で誠結構だと評判で、閲覧者のほとんどは受験勉強生でした」と語っているが、前記時報掲載の貸出傾向調査で、第一・二位は日本文学と雑誌であるのは現在どこの図書館

とも変らぬものの、第三・四位に数学・地理書が上げられていることからこの図書館の主要な利用者層がうかがえよう。

ともあれこうして昭和図書館は図書館、新古書組合事務所、そして二階の貸席を三大事業として運営された。なかでも古書組合は月に十回余定期的に古書市を開くなどこの施設を大いに利用していたが、昭和六年七月こを会場にして「趣味の典籍講座」を開設した。これは古書業者の研修を目的としたもので、業界としては初めての試みであった。

昭和六年六月発行の「京都古書組合誌」第二号には、「本屋にして本を知らざる事が自己自身を遠慮勝に卑屈にさえして来たのだ。この卑屈は自己の力で打ち破らねばならぬ」といふ「典籍を業とする者には又一方、文化の媒介者としてここに社会的重任がある。学界から遠く離れた肩籠の中に巷間に埋れた名著を発見し、或は体系付けのも亦我等の任務だ。」(古本屋)の手に依つて残された父祖の遺業が社会に現れた事は、枚挙に暇ないが、而しそれは単なる取次ぎに過ぎなかつたのだ。我等は更に一步媒介以上のものを求めてやまぬのだ」とこの講座の目的を強く謳っている。

こうして企画された講座には、同誌が加えて「講師の顔ぶれが立派すぎるのでどうか等と質問され

ましたが、講座の平易だと言ふ事は重ねて申し上げます」とことわるほど錚々たる学者が講師として名を連ねた。



「趣味の典籍講座」を予告する
「京都古書組合誌」第二号

店主の閑話

美術書セールの雑感

一昨年の春に知り合いの画材店の主人より京都洋画材商組合主催で、京都市勸業館にて毎年行なわれている「画材ショー」で美術書売ってみませんかとか声がかかりました。

以前より美術書だけの即売会をしてみたいと思っていました折、話しは、トン・トンと進みました、が、広いスペースの関係上、大書堂の中村氏とシルヴァン書房の岸本氏に参加をお願いし、とにかく形だけにはつきました。ところが時間的な関係上、宣伝が全くなされ

一、佛書について 禿氏裕祥先生
一、日本古刊書 鈴木三七先生
一、世界各国古書肆と古書目録 中村新太郎先生
一、和漢書の装幀 吉澤義則先生
一、俳書談 額原退蔵先生
一、きりしたん文学書 新村 出先生
一、明治社会思想文献雑誌 住谷悦治先生
一、法律書の話 近藤英吉先生
そして課外講座として其中堂三浦良吉氏の講演も加わった。
期日は七月十日より七日間、午後七時より十時までで、図書館二階の大広間で開催された。会費は

ず、結果は惨憺たるものでした。
本年も8月3日・4日の2日間、昨年同様、京都市の勸業館に行なわれ、美術専門家に売るべく同三書店が出店しました。目録という程ではないのですが、主だった美術書を掲載したチラシを二千枚程造り昨年の宣伝不足を挽回しようと、各方面に送りました。

会期はたった2日なので搬入の次の日は、搬出とかなりハードで、豪華美術画集のたぐいは、特に重く大変、品揃えも、画材ショーの性格上会場にこられるお客様は、専門的材料をもとめられる実務的な人がほとんどで単に趣味的なものでは……

とにかく昨年より少し頑張った(？)せいか、売上げはともかく来

組合員一円、組合員外二円で百名限りとなつてゐるが、前出の前田菊雄氏によるとほとんどが組合員で参加は五十名ほどだったとの事である。

講座はこれ一回限りで終つたが、このあと古本に関する鑑識力の養成に資するため「古本学校」の創設が提案されていることから、こうした講座が京都古書業界のその後に少なからず影響を与えたものと思われる。

この昭和図書館も「京都古書組合誌」によると、早くも昭和七年には南へ二寸余傾斜し、その修理に千円が必要とか、昭和九年には

年に向けてまあまあ感觸でした。

私は、本を売ると同様に画材ショーに出店している他の業者の催しを見ることも重要であつたと思ひました(店番がいやなせいもあり)。単に画材に限らず、最新のコピー、ワープロ、プリントゴッコの大型器、特殊な文具等、われわれ古書業者には、目をみはるものが多く、彼らの行う実演により、一そう楽しく身近かなものとなり、

このような文明の利器(?)を私たちの目録や宣伝のチラシなどにももっともつと利用すべきだと思ひました。

ところで、私は当店の在庫目録「美術書在庫目録」をワープロを使用して年に数回発行しておりすが、まだまだ頭が堅く他店を超

財政困難が訴えられている。やがて運営費の不足からついに昭和十一年より三年間休館されることになった(図書週報一四六号昭和十一年三月刊)。その後は戦時体制となり創設時の活気を取りもどせぬまま昭和二十年、強制疎開によって取り壊しの憂き目に会ひ、建物京都の北郊岩倉の農協へ引き取られた。古書組合はその後中京区東洞院六角上ルへ、新本組合は同区二条河原町東入へ引越し現在に至つてゐる。

(キクオ書店 前田司)
(本稿中の昭和図書館の写真は「京都書店会館竣工記念誌」より転載。)

越するようなものではありません。こうして他業者といつしよに事業をしたり、ついでは最新の情報機器を見学することは当座の売り上げ以上の利益があつたと満足しております。

我が古書研も春には、勸業館を使い展示即売会をしており、豪華な目録もつくつております。しかしまだ「ごちゃごちゃ」していて洗練された感じが持てないのは、私だけでしょいか？それとも古書店の宿命なのでしょう？此度の画材商組合との即売会の収穫をこうした催しにも反映したいと願つています。

(山崎書店 山崎純夫)

古書研だより

第九回「古本まつり」

—— 古本供養と青空古本市 ——

錦秋古都の年中行事、京都古書研究会主催「古本まつり」は第九回を迎え、十一月一日（金）より四日（月・振替休日）まで左京区京大北門前、百万遍知恩寺境内にて開催。

来年に第十回の記念すべき周年を控えているため、新しい企画はすべて来年まわしとしたため本年

はいささか漸新さに欠けるようであるが、青空古本市開幕に先だって催される「古本供養」や「チャリティーオークション」「入札セール」は我が国唯一のイベントとして全国的に有名である。さらに

青空古本市はその量といい価格と

いい関西一の規模を誇るが、松林に点在する古本屋を、時折り聞える読経と鐘の音を耳にしての古本漁りの環境のすばらしさを加えるならこれこそ全国一を誇りうる古本市である。

今年のイベント

“昨年のおなたに会いませんか”

毎年おいでいただく方へ感謝するイベントとして今年初めての試み。昨年の古本まつりのスナップ写真を掲示。そこに写っている方に写真と共に五〇〇円（金券）（古本まつりで有効）をさし上げる趣向。昨年おいでいただいた方はこの掲示板（村役場前）は必見。

会場入口ではアンケート

来年十回記念を盛り上げる参考資料とさせていただきますためご来場の方にアンケートを依頼。ご回答いただいた方には春の古本まつりの案内をお送りする。

ポスターは今年も画家林哲夫さんのデザイン（写真上）。本の花咲く中に哲学者というファンタジックな力作。ご希望の方には送料五百円でお届けいたします。

このほか児童本コーナーにも力を入れるとコーナー担当者の力強い声も聞いている。「子供達を本好きに」というのは当研究会の運動の一つ。児童本は秋、春の「古本まつり」で一括購入という子供図書館もあるほど。

京都古書組合主催

「古書大市会」開催

京都府古書籍商業協同組合主催の古書大市会が、来る十一月十日京都古書組合事務所にて開催される。これは古書業者のみの入札会で一般の方の入場は出来ないが、業者を通じて出品や購入は可能である。現在古書界では和書類、版画類や趣味書など人気を呼んでいるが、本のご処分をお考えの方は絶好の機会。当会々員にどうぞお気軽にご相談下さい。

またこの即売会にあわせて古書研究会の連合目録「特選総合古書在庫目録」第四号も発行予定。本誌の定期購読者で目録お申し込みいただいた方には無料でお送りする。詳しくは次号及び次々号で発表。

「探求書コーナー」についてお答え

当誌第二十一号の古書研だより

に「探求書コーナー」をもうけ、

探求書掲載希望を募ったところ、

現在までに二十八名の方より依頼

があった。その後の号にも掲載

するスペースがなく、申しわけな

く思っております。ただ掲載はい

たしておりませんが、探求書の探

索は会員間で常時行っており、す

でにおよせいただいた半分近くの

おしらせ下されば、この大市で入手出来るように努めます。

春の「古本まつり」

来春岡崎勸業館で

開催決定

第三回春の「古本まつり」は来春五月二日より五日まで京都市左京区岡崎公園内京都市勸業館で開催することが決定した。今回は同館の二階全フロアーを使用する。警備の面でも安心できるだけに、出品はさらに充実したものになるはずである。

またこの即売会にあわせて古書研究会の連合目録「特選総合古書在庫目録」第四号も発行予定。本誌の定期購読者で目録お申し込みいただいた方には無料でお送りする。詳しくは次号及び次々号で発表。

方の本を見つけております。次号よりは出来るだけ本誌に掲載のスペースをとり皆様のご便宜を計りたいと思います。

探求書掲載ご希望の方は

◎千両京都市中京区東洞院通六角

上ル 京都古書組合内 京都古書

研究会「探求書係」

宛にお申込み下さい。但し本誌定

期購読の方に限ります。尚掲載の

選振は編集部で致しますが、掲載

はなくとも探索し、見つければお

しらせ致します。（編集部）

《即売会》

●第67回古書籍即売会

十月二十五日（金）十三時（水）

京都近鉄百貨店七階催場

目録発行 お問合せ先〓京都古

書組合（電話〓二二一〇三〇七）

●阪急古書のまち十周年記念古書

即売会

十一月二十九日（金）十二月一日（日）

大阪阪急ランドビル二十六階

目録発行、お問合せ先〓臨川書

店大阪店（電話〓七四一三〇〇）

編集後記

◎三号誌で終わると誰からも確信（？）されていたこの往来も三十号をおとどけすることが出来た。喘喘と発行して巻を重ねたに過ぎぬのではないが、しっかりとした出版の思想はあったのかとふり返ってみると何と心もとない。こころ

で筋金を入れぬと、と鞭を一打ち。◎我々古書業者の未来を探ろうと本誌三十号を記念して、新京都市派を代表する梅原猛先生にご助言を承った。興味つきぬお話をうかがい一回分に切り詰めてしまうのは勿体なく次号に続けることにした。次号をお楽しみに。

次号予定

「京古本や往来」第三十一号は六十二年一月十五日発行です。



〒600 京都市下京区寺町通仏光寺

三密堂書店

電話(〇七五) 三五一一九六六三
振替 京都 四一三三七一

今回は密教特集号

1	密教大辞典 二冊揃	松永昇道編	同編纂会	昭21	六〇〇〇
2	真言密教聖典	小野清秀著	歴史図書	昭52	一五〇〇〇
3	密教	神林隆平著	臨川書店	昭56	七〇〇〇
4	真言密教の教学	金山穆昭著	臨川書店	昭56	八〇〇〇
5	秘密仏教の研究	森田竜徳著	臨川書店	昭58	四〇〇〇
6	真言宗安心全書	長谷宝秀著	二冊揃	昭48	二五〇〇〇
7	真言宗法儀解説	大山公淳編	高野山	昭24	五〇〇〇
8	真言宗中宗部教科書 三冊揃	梶尾祥雲代	梶尾祥雲代	昭10	二五〇〇〇
9	常用諸経典和訳	梶尾祥雲著	六大新報	大3	一五〇〇〇
10	九條錫杖経講義	蓮生觀善著	山城屋	昭12	六〇〇〇
11	即身成仏義講話	吉祥真雄著	山城屋	昭9	六〇〇〇
12	弘法大師諸弟子全集 三冊揃	長谷宝秀編		昭49	二〇〇〇〇
13	人となる道	葛城慈雲尊者編	大教院	昭9	三〇〇〇
14	修験道の発達	村上俊雄著	叡信書房	昭18	八〇〇〇
15	修験道要典	服部如実編	三密堂	昭46	六〇〇〇
16	日本九峰修行日記	野田泉光院	同刊行	昭19	一六〇〇
17	羽黒修験道秘録	星川豊彦著	第一書房	昭10	六〇〇〇
18	山伏と皇民錬成	大伴茂著	叢文館	昭18	四〇〇〇
19	山岳宗教開祖役行者宮城信雅	修験社		昭17	二五〇〇
20	文化史上に於ける役行者 牛窪弘著	修験社		昭3	二五〇〇
21	神変大菩薩 大三輪信哉著	興教書院		昭11	四〇〇〇
22	役行者神變大菩薩と聖護院門跡	宮城信雅編		昭25	一五〇〇
23	密教録 水戸旭峯道人	聖護王府		安永4	八〇〇〇
24	修験道護摩祈禱法石村龍勝編	山城屋		昭13	八〇〇〇
25	法曼流四度次入台山法曼院藏板	五冊揃		安永8	三〇〇〇
26	十八道持誦記 大僧都智鏡撰	江戸期版本		昭10	八〇〇〇
27	金剛密藏藏界同部次第 供養文黄鐘調			昭12	一五〇〇〇
28	真言宗山階派宗制宗規 佐竹信光編	同宗派		昭24	一〇〇〇〇
29	高野山金剛流御歌和讃音集 曾我部俊雄著			昭37	三〇〇〇
30	諸仏綜合団變法則 矢坂寛道著	松佑寺		昭7	一五〇〇
31	弘法大師お勤講式 八坂寛潤編	松佑寺		昭7	一五〇〇
32	大師御遠忌念法則八坂寛潤編	松佑寺		昭7	一五〇〇
33	般若誦経勤字必携青莊山人古愚著	勤字精研		昭35	一〇〇〇

〒530 大阪市北区芝田一丁目六番二号

(株)臨川書店 大阪店

電話(〇六) 三三四一三〇〇
振替 京都 八〇〇番

営業時間 午前十一時—午後八時 定休日 毎週水曜日

1	泉屋清實 住友吉左衛門	昭9	三〇〇〇
2	白鶴吉金撰集	昭26	一〇〇〇
3	古代北方美術 大阪市立美術館綜芸舎	昭29	八〇〇〇
4	中国絵画選集 大阪市立美術館	昭29	四〇〇〇
5	中国絵画選集 寺崎三矢吉翁蒐集集東拓経	昭28	三〇〇〇
6	東洋美術史 大村西崖	昭15	四〇〇〇
7	東洋美術史研究 浜田耕作座右宝刊行会	昭18	二〇〇〇
8	東洋美術史要説 町田・鈴木	昭30	八〇〇〇
9	東洋美術史研究 田中豊蔵	昭24	四〇〇〇
10	東洋の古代芸術 松本文三郎	昭18	二〇〇〇
11	支那美術史論 堂谷憲男	昭19	二〇〇〇
12	中国美術の研究 田中豊蔵	昭39	三〇〇〇
13	支那絵画小史 大村西崖	昭43	二五〇〇
14	支那絵画史 中村不折他	昭21	二〇〇〇
15	支那の絵画 伊勢専一郎	昭13	二〇〇〇
16	支那絵画史 内藤虎次郎	昭18	四〇〇〇
17	支那絵画史研究 下店静市	昭40	四〇〇〇
18	漢代画像の研究 長広敏雄	昭43	一五〇〇
19	明代絵画史研究 郭派 鈴木敬東文化研究報告	昭19	一五〇〇
20	南画論 廣川毅一	昭14	一六〇〇
21	支那画人伝 横川毅一	昭31	一八〇〇
22	金冬心 山水画冊 中央美術社	昭5	五八〇〇
23	石 橋本関雪 中央美術社	昭30	四〇〇〇
24	石 山水妙品画冊 萩原安之助	昭13	二五〇〇
25	支那の建築と芸術 関野貞	昭15	四〇〇〇
26	支那の仏塔 村田治郎	昭35	三〇〇〇
27	近代中国の書 松井如流	昭35	三〇〇〇
28	故宮法書選萃 故宮博物院	昭35	二〇〇〇
29	書の歴史—中国篇— 伏見冲敏	昭35	二〇〇〇
30	古印の美 山口平八	昭35	一八〇〇
31	支那の印章 安藤更生	昭40	三〇〇〇

32	吳昌碩印譜 松丸東魚	昭30	一六〇〇
33	荃盧印譜 松丸東魚	昭31	七〇〇〇
34	徐三庚印譜 松丸東魚	昭33	三〇〇〇
35	バリス新蒙古風土記 高山洋吉	昭13	三〇〇〇
36	スリ西部中央亜細亞旅行記 外務省	昭14	四〇〇〇
37	ユツク 支那旅行記 後藤・川上 二冊	昭14	二五〇〇
38	科学者の鞆組行 大陸叢書 第四卷	昭15	三〇〇〇
39	ラモレ 沙漠の蒙疆路 西巻周光 大陸叢書二	昭15	三〇〇〇
40	元主忽必烈が歐洲に派遣したる	昭16	二〇〇〇
41	景教僧の旅行誌 佐伯好郎訳補	昭28	二〇〇〇
42	蒲寿庚の事蹟 桑原隲蔵	昭23	六〇〇〇
43	古代の蒙古 内田吟風	昭15	四〇〇〇
44	蒙古高原横断記 支那歴史地理叢書	昭16	二〇〇〇
45	西蔵文化の新研究 青木文教	昭18	八〇〇〇
46	西アジア民族史 内藤 支那歴史地理叢書一	昭30	二〇〇〇
47	西ウイグル国史の研究 安部健夫纂文堂	昭30	一八〇〇
48	アフガニスタン紀行 岩村忍	昭35	四〇〇〇
49	敦煌学五十年 神田喜一郎	昭15	七五〇〇
50	東亜考古文化研究 原田淑人	昭23	二五〇〇
51	東亜考古学の発達 水野清一	昭22	一五〇〇
52	ユウラシア古代北方文化 江上波夫	昭22	一五〇〇
53	東亜考古学概観 梅原未治	昭13	九〇〇〇
54	古代北方系文物の研究 梅原未治	昭13	九〇〇〇
55	支那考古学論攷 梅原未治	昭12	三〇〇〇
56	殷墓発見木器印影図録 梅原未治	昭12	三〇〇〇
57	周秦漢三代の水耕研究 東方考古学叢刊	昭12	三〇〇〇
58	萬安北沙城 水野清一	昭14	四〇〇〇
59	西域考古図譜(複製) 国華社 二冊	昭14	四〇〇〇
60	雲崗石窟とその時代 支那歴史地理叢書	大5	三〇〇〇
61	龍門石窟 山本明撮影 プレート六十枚	昭13	七五〇〇
62	大同石仏寺 木下李太郎	昭16	八〇〇〇
63	江南踏査 (昭和十一年度) 三田史学会	昭16	八〇〇〇

電話(〇七五) 四五一〇五二三
振替 京都 三一一九一四八

振替 京都 八一四三六

電話(〇七五) 七一一―五四二九
振替 京都 七―三三〇八九

1	季刊鎗花	倉刊号	1,000
2	季刊銀花	第二号	1,000
3	季刊銀花	第四号	1,000
4	季刊銀花	第五号 第六号	各500
5	古代詩歌に於ける神の概念	欽傍書房	昭和10
6	定本吉井勇歌集	吉井勇 甲鳥書林	昭和18
7	歌隨筆 雷	吉井勇 天理時報社	昭和18
8	茂吉小文	齊藤茂吉 朝日新聞	昭和24
9	短歌一家言	齊藤茂吉 齊藤書店	昭和22
10	芭蕉俳句定本	勝峯晋風 古今書院	昭和12
11	牧水歌集	若山牧水 泰光堂書店	昭和10
12	島と歌	佐々木信綱 実業文芸社	昭和15
13	松木大彦	丸山静 八雲書林	昭和18
14	葉隠武士道精神	松波治郎 一路書苑	昭和15
15	柳生心眼流練武の秘傳も語る	鎌倉練武会 教育図書	昭和17
16	演劇と文化	山本修二 全國書房	昭和16
17	文楽史	木谷逢吟	昭和18
18	宗教大博覧会誌	永末明	昭和10
19	鬼の念佛	釋孤齋	昭和10
20	垂加神道	小林健三 理想社	昭和17
21	皇道	中村三郎 稜威社	昭和15
22	親譲之道	中村文山	昭和34
23	馬場恩治先生追慕録	加藤明子編	昭和16
24	玉鏡	加藤明子編	昭和10
25	靈鑑は訴える	香山滋 桃源社	昭和35
26	點心	芥川龍之介 金星堂	昭和15
27	赤道祭	火野葦平 初版	昭和26
28	小国(む)しば 課教授組案	ライオン齒科衛生部	昭和10
29	野原の郭公	若山牧水	昭和10
30	壁の作り方	森規短	昭和21
31	法政大学八十年史		昭和36
32	花の百年(藤井大丸百年史)		昭和45
33	福井空襲前後の医療小史	福井県医師会	昭和53

美術と版画の店

大書堂

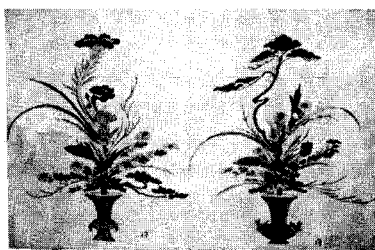


季刊銀花 No. 1~40迄揃 40冊

¥100,000

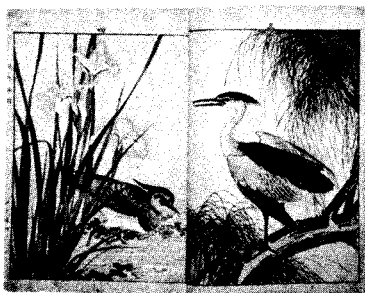
おもちゃ画譜 川崎巨泉
揃40冊 昭和9年

¥300,000

有喜世之華 宮川春丁画 明治30年
彩色木版画 全37図一帳 ¥380,000

瓶花図彙 江戸後期 彩色全95図 一帳

¥450,000

景年花馬画譜 春夏秋冬 揃四冊
明治25年元版 ¥400,000

沈南蘋動植物帳 彩色木版 全12図 一帳

大正11年 ¥88,000

33 平安紋鑑 京都染物同業組合 4×4 cm 昭11 天	32 吳昌碩花卉冊 木版摺 昭44 吾	31 斎白石花艸工虫冊 木版摺 昭37 天	30 斎白石画集 木版摺 昭56 天	29 蘿軒變古箋譜 木版摺 昭53 天	28 國吉康雄画集 求龍堂 昭55 天	27 芝田米三画集 求龍堂 昭54 天	26 田崎広助画集 大和書房 昭44 天	25 蟹のよこばい 福井一郎画集 求龍堂 昭46 天	24 福井良之助画集 一六元一六二 講談社 昭36 天	23 林武 限100部 美術出版 昭53 天	22 岡鹿之助画集 限88 美術出版 昭49 天	21 小糸源太郎画集 限88 求龍堂 昭37 天	20 坂本繁二郎画集 京都書院 昭37 天	19 宇田荻郎 (画集) 京都書院 昭16 天	18 木島桜谷名画集 桜谷文庫 昭43 天	17 中村岳陵画集 限200 署名入 便利堂 昭46 天	16 金島桂華画集 限300 署名入 便利堂 昭46 天	15 華香墨蹤 都路華香画集 限7 昭7 天	14 遺香画集 谷口香崎 大和絵 朝日新聞社 昭56 天	13 小林古徑画集 芸艸堂 昭12 天	12 溪仙遺墨集 限100部 便利堂 昭33 天	11 探果写生画冊 阿部探果 演劇出版社 昭44 天	10 東京繁昌記 木村莊八 便利堂 昭44 天	9 鉄斎研究 No.1 32号 便利堂 昭44 天	8 鉄斎大成 講談社 四冊 昭51 天	7 田能邨竹田先生百選帳 審美書院 全二冊 昭3 天	6 華山先生画譜 京都国立博物館 便利堂 昭11 天	5 蕪村画集 審美書院 昭35 天	4 池大雅作品集 中央公論美術 昭35 天	3 池大雅名画譜 京都国立博物館 便利堂 昭8 天	2 南画集 蕪村大雅華山 国華社 全三冊 昭2 天	1 養素富遺墨 今尾景年画集 二百二十四図 便利堂 全三冊 昭5 天
-------------------------------	---------------------	-----------------------	--------------------	---------------------	---------------------	---------------------	----------------------	----------------------------	-----------------------------	------------------------	--------------------------	--------------------------	-----------------------	-------------------------	-----------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------	------------------------------	---------------------	--------------------------	----------------------------	-------------------------	---------------------------	---------------------	----------------------------	----------------------------	-------------------	-----------------------	---------------------------	---------------------------	------------------------------------

〒604 京都市中京区寺町通錦上ル

大書堂

電話(〇七五)二二一〇六八五
振替 京都 七三一一六八五

〒606 京都市左京区今出川通百万遍東入
(京都大学前)

井上書店

電話(〇七五) 七八一・一三五二
振替 京都 七二二四九七

1	トヨタのあゆみ他2冊トヨタ自動車工業	昭53	四〇〇〇
2	尼崎市議会史 資料・記述・施政方針演説集3冊	昭45	七〇〇〇
3	サラリーマン金融の法問題 立命大入文研紀要	昭54	三、〇〇〇
4	アダムスミス伝 J・レイ	昭47	一、〇〇〇
5	イギリス革命の思想的先駆者たち 岩波	昭47	二、〇〇〇
6	債権(法律論文集Ⅲ) 末川博 岩波書店	昭45	四、〇〇〇
7	マルクス経済学の基本問題 向坂 岩波	昭42	二、五〇〇
8	シュンペーター経済学史 岩波書店	昭46	三、八〇〇
9	ヴァルガ資本主義経済学の諸問題 岩波	昭43	四、〇〇〇
10	ヴェーバー一般社会経済史要論上下 岩波	昭41	四、四〇〇
11	モナ・リザ論考 下村寅太郎 岩波書店	昭49	三、〇〇〇
12	マキアヴェリイの政治思想 佐々木毅 岩波	昭45	二、七〇〇
13	フランス革命とその思想 河野健二 岩波	昭39	二、八〇〇
14	ドイツ革命史序説 篠原一 岩波書店	昭39	二、〇〇〇
15	明治維新史研究 羽仁五郎 岩波書店	昭42	二、〇〇〇
16	日本古代国家の研究 井上光貞 岩波書店	昭43	四、〇〇〇
17	日本古代政治史の研究 北山茂夫 岩波	昭43	三、八〇〇
18	全徳の立場 高橋里美 岩波書店	昭44	三、三〇〇
19	西洋近世哲学史稿 一冊 九鬼周造 岩波書店	昭44	三、八〇〇
20	帝國主義研究 矢内原忠雄先生還暦記念論文集下巻 岩波	昭34	三、〇〇〇
21	言語生活の探究 西尾実 岩波書店	昭39	二、八〇〇
22	現代日本文学論争史 未来社 岩波	昭39	五、五〇〇
23	炬ばた談義 白井吉見 初版 築摩	昭53	一、四〇〇
24	前賢餘韻 石川淳 初版 岩波	昭55	一、五〇〇
25	安東次男著作集第一巻 全詩集 青土社	昭52	三、三〇〇
26	考證 永井荷風 秋庭太郎 岩波書店	昭41	三、三〇〇
27	カフカ全集 決定版新潮社	昭55	二、〇〇〇
28	断腸亭日集 永井荷風 岩波書店	昭55	一、六〇〇
29	秘籍 江戸文学選 日輪閣	昭51	二、〇〇〇
30	漱石全集 岩波書店	昭49	四、〇〇〇
31	大岡信著作集 青土社	昭52	三、〇〇〇
32	石川淳全集 築摩書房	昭49	四、〇〇〇
33	江戸時代図誌 筑摩書房	昭50	三、〇〇〇

〒602 京都市上京区大宮通出水下る
家永町七六一

文庫堂

電話(〇七五) 八二一・七二五九
振替 京都 二二四三三七九

1	三四郎・それから・門 縮刷重函 漱石	大13	一、八〇〇
2	うめ・うま・うぐいす 初印消 龍之介	大15	四、〇〇〇
3	自然と愛 重 金子薫園	大13	一、〇〇〇
4	随筆不断経 初カバ 斎藤茂吉	昭15	一、五〇〇
5	縮図 初小印 徳田秋声	昭21	一、五〇〇
6	或る男・其姉の死 初函 志賀直哉	昭21	三、〇〇〇
7	革文函 初函少痛 志賀直哉	昭21	三、〇〇〇
8	勳章 初函 永井荷風	昭22	三、〇〇〇
9	大道無門 初函少汚 里見淳	昭22	三、〇〇〇
10	長興善郎集 初函 白樺叢書	昭16	二、〇〇〇
11	人間街 初 室生犀星	昭21	一、〇〇〇
12	信濃山中 初 〃	昭21	一、〇〇〇
13	みえ 初 〃	昭23	一、五〇〇
14	かげろふの日記遺文 初函 〃	昭34	一、〇〇〇
15	魔の宴 初 木村卯太	昭25	一、〇〇〇
16	男禁制 初 田村泰次郎	昭22	一、〇〇〇
17	故国 初カバ 芹沢光治良	昭24	一、〇〇〇
18	和紙 初カバ 東野辺薫作品集	昭46	二、〇〇〇
19	憂愁平野 初函 井上靖	昭36	一、五〇〇
20	群舞 初函ヤケ 井上靖	昭22	一、〇〇〇
21	糸と釘 初 一政 火野葦平	昭22	一、〇〇〇
22	糸みち 初 平山蘆江	昭21	一、〇〇〇
23	女優展望 初 〃	昭22	一、〇〇〇
24	志賀島 初カバ帯 岡松和夫	昭51	一、五〇〇
25	寒析 初 三好達治	昭18	二、〇〇〇
26	寒行 初函 吉井勇	昭12	一、五〇〇
27	江戸役者 初函 邦枝完二代表作全集	昭22	四、五〇〇
28	笛 初帯 船山馨	昭22	二、五〇〇
29	千お吟 初 鷺尾雨工	昭22	一、〇〇〇
30	逢初めて 初カバ 丹羽文雄	昭22	一、〇〇〇
31	告白 初カバ 樹下太郎	昭24	一、五〇〇
32	散歩する霊柩車 初カバ 木々高太郎	昭35	一、五〇〇
33	産院 初カバ 〃	昭24	一、八〇〇

34	饅饅銭 前後篇 初 角田喜久雄	昭21	二、〇〇〇
35	針線余事 初函 森田たま	昭17	一、五〇〇
36	伸子 一部二部 初 宮本百合子	昭21	一、五〇〇
37	歳月を美しく 初 寿岳しづ 銈介装	昭22	一、〇〇〇
38	春 初 小堀杏奴	昭22	一、〇〇〇
39	お嬢さん 初 吉屋信子 淳一装	昭21	一、五〇〇
40	さびなみの日記 初函 幸田文	昭31	一、〇〇〇
41	おとうと 初函 〃	昭32	一、〇〇〇
42	染彩 初函 芝木好子	昭45	一、〇〇〇
43	冬の椿 初函帯 〃	昭42	一、〇〇〇
44	肉体の火山 初 式場隆三郎	昭22	一、〇〇〇
45	法医学教室の窓から 函 浅田一	大15	二、五〇〇
46	法医学教室 函蔵印有 正木不如丘	大13	一、〇〇〇
47	第二診療簿余白 初函 〃	昭7	三、〇〇〇
48	実例法医学と犯罪捜査実話 小南又一郎	昭6	四、五〇〇
49	キンドス女天下 初函 世界奇書異聞類聚	大15	一、〇〇〇
50	ねやのものがたり(痴婆子伝)風俗文獻社	昭26	一、〇〇〇
51	季刊現代性教育研究 1-5号 鎮目恭夫 みすず書房	昭47	一、八〇〇
52	性科学論 鎮目恭夫 〃	昭50	一、五〇〇
53	有島武郎 日本文学アルバム 築摩	昭30	一、五〇〇
54	萩原朔太郎 〃	昭31	一、五〇〇
55	小林多喜二 〃	昭30	一、五〇〇
56	石川啄木 少痛 〃	昭30	一、二〇〇
57	芥川龍之介 〃	昭29	一、五〇〇
58	樋口一葉 印有 〃	昭29	一、三〇〇
59	森鷗外 印有 〃	昭29	一、五〇〇
60	島崎藤村 印有 〃	昭29	一、五〇〇
61	堀辰雄 〃	昭29	一、五〇〇
62	宮本百合子 〃	昭30	一、五〇〇
63	文学論 志賀勝 〃	昭23	一、二〇〇
64	日本近世文学十二講 高須芳次郎	大13	一、五〇〇
65	近代劇十二講 楠山正雄	大11	一、五〇〇
66	近代思想十二講 中沢臨川・生田長江	大12	一、五〇〇
67	思ひ出 河上肇 月曜書房版	昭22	一、〇〇〇
68	處世記 尾崎行雄 初・函 日本評論社	昭10	一、〇〇〇
69	世界読本 満州ロシア南洋 改造社	昭9	一、八〇〇
70	自伝 片山潜 〃	大11	一、五〇〇
71	満州・人と生活 山本惣治	昭18	一、五〇〇
72	満洲国民の歌 大政翼賛会宣伝部編	昭18	一、二〇〇

〒604 京都市中京区丸太町通千本西入南側

八木書店古書部

電話(〇七五) 八一一三八九〇

33	樹山先生筆 書札肉筆 手本一卷 右筆用	八〇〇〇
32	西山泊雲筆 書翰一通 虛子先生句碑云々 大9	五〇〇〇
31	山元春筆筆書狀一通 署名は白画像 東閣宛	八〇〇〇
30	太閤秀吉公略伝并肖像画一紙 墨摺	二、五〇〇
29	大宮社祭札之節云々 狀一紙	二、五〇〇
28	松尾社祭札二付 宛行御座候二付云々 狀一紙	五、〇〇〇
27	賀茂是久書 司馬温公家訓一紙 (東京人)	三、八〇〇
26	竹窓庵晚筆 俳句書下し一紙	三、八〇〇
25	禮法故実免狀 閑郡馬筆 一卷	八〇〇〇
24	城州綴喜郡岩田村八幡宮燈籠講一通	二、五〇〇
23	中島來草画伯筆 書狀一通	五、〇〇〇
22	妙法蓮華經紙背文書斷簡一紙 18行	二、五〇〇
21	中井履軒筆 竹之図 めくり一紙 傷み	二、五〇〇
20	北野天満宮御肖像一幅 小品 松梅院墨摺	二、五〇〇
19	妙法 横物2字 92翁 光如筆 小品	三、〇〇〇
18	川村曼舟画伯筆 書狀一通 封筒付	五、〇〇〇
17	馬術目録 一紙 武右衛門宛	五、〇〇〇
16	大谷法印永庵筆書狀一通 汚正親院大僧正宛	三、八〇〇
15	溪竹庵有節筆 俳句画賛一紙	三、八〇〇
14	藩札 錢百元 仲屋加右衛門 一枚 汚	三、八〇〇
13	瀧川 錢百元 仲屋加右衛門 一枚 汚	三、八〇〇
12	町送り請書之事一紙 今出川室町年寄市左門 明3	二、五〇〇
11	清水寺成就院觀音延壽満願陀羅尼功德記一紙 江戸末	三、八〇〇
10	兵法御守秘密口伝 一紙	三、八〇〇
9	驚峰 瀬井和尚筆 一紙	三、八〇〇
8	瑞祇15尊密印三味流法曼陀書墨摺一紙 江戸末	二、五〇〇
7	醍醐大納言輝久卿筆 和歌一紙	三、八〇〇
6	短冊庭田中納言重胤卿 高丘兵部大輔紀李卿各一枚	二、五〇〇
5	賀茂祭使御出立次第一紙	三、八〇〇
4	大山樺坊庵田植和讃墨摺并親鸞聖人尊影一紙	三、八〇〇
3	大藏流 免許狀一紙 初日十歳三番三	五、〇〇〇
2	二階堂龍興寺略縁起一紙 洛陽18番札所泉涌寺	二、〇〇〇
1	枯魚堂瓢筆 俳句書下し一紙	三、八〇〇
34	藩札撰州浜村 尼崎 和州柳本 各一枚	三、〇〇〇
35	不審庵千宗左書翰一通 封筒共	三、〇〇〇
36	行之行子伝法許狀今日庵13世宗室銀婚記念印	大2
37	時習齋并時習齋之解説一紙 棚橋広傳筆	三、八〇〇
38	川原仏庵和南筆御馳走に就ての文二會寺宛	江戶末
39	満州国白話建国宣言 10頁 満語 資政局刊	二、五〇〇
40	木下和泉寺書狀一通 傷有桂昌院様増上寺真言功德	一、〇〇〇
41	岡本黄石筆 横物一紙	三、〇〇〇
42	桃原良生筆書翰一通 飯田景武宛清和和讃相決候云々	三、〇〇〇
43	今日庵宛 指物師覚狀一紙 請求書 江戸末	三、〇〇〇
44	織田資斎筆 消息一紙 初破れ名古屋南園家大元没	三、〇〇〇
45	青山和尚筆 無涯老師見寄詩一紙 虫入	三、〇〇〇
46	歙山樺師筆 横物一紙	三、〇〇〇
47	碧玉庵大愚筆書狀一通 珠光院再建之条金子12両云々	五、〇〇〇
48	関克明書 一紙 江戸の書家 天保6没	二、五〇〇
49	砥上種樹筆 一紙 画入書信一紙	三、八〇〇
50	荒川矩筆原稿紙20枚 芸艸堂竹内栖鳳に就ての原稿	三、八〇〇
51	茶人町田門齊筆書狀一紙 松尾宗五門濃州人汚しみ	八、〇〇〇
52	南無大師遍照金剛 墨摺一紙	三、〇〇〇
53	ジャワ仏 拓本一紙	三、〇〇〇
54	文学博士近重物安筆 達摩画賛一紙	二、五〇〇
55	井蛙筆 書狀一通 松波先生宛	三、八〇〇
56	並井一華筆 虎之図一紙 奈良五糸市住	三、八〇〇
57	久米道沖筆 書翰一通 六角室町住彦根人	文政13
58	高野山 龍象筆 龍之字(画)一紙	三、〇〇〇
59	書道手本断簡一紙	三、〇〇〇
60	豫州桑田山繁多寺 尊像一紙	延宝8
61	萬年青銘鑑 番附一紙	明37
62	徳山梵信 寺田筆一通 通橋浜大田村長瀧兼崎家宛	明5
63	渡瀬漫雲筆 書狀一通	三、〇〇〇
64	家中屋敷売券狀一通 河原町夷川上	延宝7
65	宣旨案狀一紙 賀茂辰頭果主 任下総介	寛政11
66	阿彌陀尊像一絹 寂如上人裏書願主釈宗閑	八、〇〇〇
67	徳岡神泉に就て原稿紙3枚 神崎憲一筆	昭8
68	加州石郡銭屋五兵衛大判小判船有高紙号	三、八〇〇
69	大久保忠教筆 かとと画賛一紙 汚傷	三、八〇〇
70	上田元冲筆 詩一紙 小品京都儒医法眼	明8没
71	飯田助左衛門書狀一卷	五、〇〇〇
72	今上天皇御名 菱澤謹写 藍刷一紙	明治
73	源朝子御陵外上方御臺略図一紙 式子内親王有	江戶末
74	芭蕉像并賛巨勢金起謹写 水石横写 墨摺一紙	二、五〇〇
75	益景12景 初破れ伝受伏千家武者小路印	明15
76	高市郡上飛驒村 訴訟狀一通	安政2
77	頼又次郎筆 書翰一通	三、〇〇〇
78	口本三景松島五女堂并宮古島小野真々枚	明20頃
79	清須古城瓦 拓本一幅	八、〇〇〇
80	元京大法輪 織田萬生筆 書狀一通	五、〇〇〇
81	茶会記 一紙 肉筆 料理献立有	明治
82	宿料請取通 一通 御幸町大日町支配	天保8
83	大なる物見立綴番附一紙 勘定元字の胸算用	江戸末
84	高階根園筆一紙 初破れ伝受伏千家武者小路印	弘化元
85	高階根園筆一紙 根園孫寛前守江戸期最後典医	一、五〇〇
86	高階根園筆一紙 根園孫寛前守江戸期最後典医	大3
87	拜山筆 横物めぐり一絹	三、〇〇〇
88	東寺觀智院筆 田原郷岩本村大神之拜殿之作一紙	三、八〇〇
89	松葉屋呉服店五条新町 広告一紙	三、八〇〇
90	染縮細羽田室町鹿ノ子リホノ西川島丸廣告一紙	大正
91	大橋東堤筆 詩一紙 京都ノ書家	五、〇〇〇
92	永觀堂 東山天華筆 一紙	五、〇〇〇
93	宮崎道員南夷川酒嶋合御池婚儀用小野堀川廣告	大正
94	花前泊鵬筆 俳句草稿一紙 越後後祠官	五、〇〇〇
95	色紙 中村芳中 俳句 大坂住画家	文化頃
96	莊門霞亭筆 詩小品 京都書家	三、八〇〇
97	本阿弥重石衛門筆 大幸百助宛金沢儒者 書狀一通	萬延元
98	狩野山樂筆 鷹之図銅版刷 大阪集画堂刊	明29
99	松村景文筆 南面 銅版刷 大阪集画堂刊	明31
100	森寛斎筆 月にほととぎす図 一幅	八、〇〇〇
101	漢斎筆 大黒之図 一幅	五、〇〇〇
102	無著禪師達摩贊 一幅	二、五〇〇
103	日録 親類書	五、〇〇〇
104	貫名海屋筆 南面 一幅	二、〇〇〇
105	奥村厚一筆 月夜すき野之図 色紙一幅	五、〇〇〇
106	登内微笑筆 椿之図 大徳寺大亀和尚賛一幅	八、〇〇〇
107	如雲拙堂禪師筆 圓相讃	五、〇〇〇
108	大徳寺 大綱老師筆 消息	五、〇〇〇
109	山岡鉄舟筆 二行詩	一幅
110	新島襄先生書翰 一幅 高田義甫宛	二、〇〇〇

〒604 京都市中京区河原町通六角下ル

赤尾照文堂

電話(〇七五)二二一五八八
振替 京都 五一三三二一六

33	現代の民芸陶器	伊東安兵衛	四季社	昭36	一、〇〇〇	
32	支那古陶磁の鑑賞	尾崎海盛	北原出版	昭19	三、〇〇〇	
31	やきもの談義	永竹 威	五月書房	昭34	一、〇〇〇	
30	茶碗	佐々木三味	晃文社	昭18	一、〇〇〇	
29	陶説注解	尾崎海盛	雄山閣	昭56	一、〇〇〇	
28	和菓子大系	葉業講習録	金子倉吉	昭30	八、〇〇〇	
27	茶と美	柳 宗悦	牧野書店	昭54	四、〇〇〇	
26	茶室大観	全2巻	恒成一訓	昭17	四、〇〇〇	
25	中華茶書	青木正児	春秋社	昭37	三、〇〇〇	
24	茶禪不昧公	高橋梅園	宝雲舎	昭19	二、〇〇〇	
23	日本茶道史	重森三玲	藤森書店	昭57	五、〇〇〇	
22	私記・茶道年表	天野省吾	創思社	昭54	三、七〇〇	
21	千利休研究	桑田忠親	河原書店	昭15	七、〇〇〇	
20	千利休	西堀一三	東京堂	昭51	三、〇〇〇	
19	千利休	桑田忠親	青磁社	昭17	三、〇〇〇	
18	利休の茶室	桑田忠親	河原書店	昭36	四、〇〇〇	
17	利休の茶室	堀口捨己	岩波書店	昭24	五、〇〇〇	
16	茶道古典全集	全12巻	淡交社	昭10	六、〇〇〇	
15	茶道	高橋龍雄	大岡山書店	昭10	六、〇〇〇	
14	茶道	全15巻	和 田 三 造 編	博美社	昭 8	八、〇〇〇
13	配色総鑑	全6巻	和 田 三 造 編	博美社	昭 8	八、〇〇〇
12	カラールバム	上村六郎・山崎勝弘	博美社	昭24	五、〇〇〇	
11	日本工芸図録	岡田 譲	朝日新聞社	昭27	四、〇〇〇	
10	日本工芸史	渡辺素丹	厚生閣	昭13	八、〇〇〇	
9	工芸文化	柳 宗悦	文芸春秋社	昭17	八、〇〇〇	
8	れんばあづくし初期版画	洪井 清	昭17	八、〇〇〇		
7	画本虫撰	歌麿筆	昭17	八、〇〇〇		
6	画帖時世粧	上・下	風俗絵巻図画刊行会	大 5	三、〇〇〇	
5	絵本東重郎	上・下	風俗絵巻図画刊行会	大 6	三、〇〇〇	
4	浮世絵と挿絵芸術	織田一磨	萬里閣	昭47	八、〇〇〇	
3	錦絵の彫と摺	石井研堂	五月書房	昭56	四、〇〇〇	
2	日本版画変遷史	島屋政一	五月書房	昭56	四、〇〇〇	
1	日本版画変遷史	島屋政一	五月書房	昭56	四、〇〇〇	

34	三島刷毛目	山田萬吉郎	宝雲舎	昭18	五、〇〇〇
35	伊萬里染付皿の鑑賞	名倉英二	宝雲舎	昭17	六、五〇〇
36	日本の陶磁器	永竹 威	社会思想社	昭47	二、五〇〇
37	民窯の旅	水尾比呂志	芸艸堂	昭47	一、二〇〇
38	壺	小山富士夫	淡交新社	昭40	一、五〇〇
39	やきものふる里	村山 武	求龍堂	昭47	一、四〇〇
40	清水六兵衛歴代名品陶展	朝日新聞社		昭55	三、〇〇〇
41	京説九州古陶磁	永竹 威	日江書院	昭38	三、〇〇〇
42	京都名園造園誌	全3巻	久恒秀治	昭42	二、五〇〇
43	松尾大社造園誌	松尾大社社務所		昭50	一、〇〇〇
44	日本の庭	立原正秋	新潮社	昭58	一、五〇〇
45	改稿日本の民家	今和次郎	相模書房	昭18	三、五〇〇
46	日本民家史	藤田元春	刀江書院	昭47	八、五〇〇
47	日本中世住宅史研究	野地脩左	臨川	昭56	六、五〇〇
48	日本建築経済史	原沢東吾	富山房	昭19	一、五〇〇
49	日本建築史要・附図	伊東忠太	龍吟社	昭19	一、五〇〇
50	日本建築史要・附図	天沼俊一	飛鳥園	昭7	二、〇〇〇
51	日本建築史要・附図	天沼俊一	思文閣	昭50	二、〇〇〇
52	日本建築史要・附図	天沼俊一	思文閣	昭48	二、〇〇〇
53	石燈籠	全4巻	天沼俊一	昭12	三、〇〇〇
54	慶長以前の石燈籠	天沼俊一	スズカケ	昭12	三、〇〇〇
55	東洋建築(第一巻一号一九号)	相模書房		昭7	六、八〇〇
56	建築様式論叢	堀口捨己・板垣鷹徳		昭18	六、五〇〇
57	建築論集	タウト全集⑤	藤島亥治郎	昭17	三、〇〇〇
58	伊勢神宮の建築と歴史	井上一之	福山敬男	昭29	七、〇〇〇
59	伊勢神宮の建築と歴史	井上一之	中村書店	昭29	二、〇〇〇
60	日本建築様式	井上一之	中村書店	昭29	二、〇〇〇
61	パルテノン	コリニョン	富永惣一訳	昭53	三、九〇〇
62	日本仏教美術の源流	奈良国立博物館		昭53	四、〇〇〇
63	仏教の美術と歴史	小野亥妙	大蔵出版	昭12	九、八〇〇
64	仏教の美術と歴史	明珍恒男	スズカケ出版	昭11	八、八〇〇
65	仏像鑑鑑	国訳秘密儀軌	国書刊行会	昭48	八、〇〇〇
66	仏像をたずねて	日本仏像百科辞典		昭45	四、〇〇〇
67	仏像彫刻のすずめ	松久朋琳	日貿出版	昭48	三、〇〇〇
68	仏像彫刻のすずめ	北川 薫	日貿出版	昭51	二、七〇〇
69	石像彫刻技法	造像法・本體法	太田古朴	昭55	二、〇〇〇
70	神像彫刻の研究	岡 直己	角川書店	昭46	六、八〇〇
71	古代神像の人類学的研究	北村・石崎	美術史学会	昭16	六、五〇〇
72	別尊京都仏像図説	美術史学会		昭18	六、五〇〇

73	田の神像	南九州大隅地方	野田千尋	昭47	三、〇〇〇
74	日本の彫刻①	飛鳥・奈良	土門 拳	昭54	五、八〇〇
75	日本の彫刻②	平安後期・鎌倉	集英社	昭54	五、八〇〇
76	大和の仏像	入江泰吉写真全集	集英社	昭56	三、五〇〇
77	神像 神と人との饗宴	岩井宏美	昭56	五、〇〇〇	
78	祭りりと芸能の旅	全6巻	本田安次編	昭53	一、五〇〇
79	日本奇祭	文化庁	田中英機監	昭58	一、五〇〇
80	神輿 全2巻	監物恒夫	刊々堂	昭58	八、〇〇〇
81	下町神輿	木下忠義・青森	清 刊々堂	昭57	二、〇〇〇
82	宝船	吉川親方	昭55	二、〇〇〇	
83	原始民俗假面考	南江二郎	昭4	五、五〇〇	
84	芸術としての神楽の研究	小寺融吉	昭4	六、〇〇〇	
85	図聚天狗列伝	西日本編	知切光蔵	昭52	七、五〇〇
86	達磨と其諸相	木戸忠太郎	村田書店	昭52	一、五〇〇
87	趣味研究 動物妖怪譚	近藤喜博	日野 蔵	昭15	一、五〇〇
88	日本の鬼 増補改訂	山上八郎	桜楓社	昭50	一、八〇〇
89	日本の甲冑	中村清兄	創元社	昭14	三、五〇〇
90	日本の扇	大八洲出版	昭21	四、〇〇〇	
91	日本交通史	大島延次郎	昭19	二、八〇〇	
92	日本交通史概論	大島延次郎	昭39	二、五〇〇	
93	日本旅行史	吉田十一	日本交通学会	昭2	二、五〇〇
94	日本の古武術	石岡・岡田・加藤	昭55	六、八〇〇	
95	武士道の大義	軍事史学会編	昭18	四、〇〇〇	
96	禮の意義と構造	西晋一郎・小糸夏次郎	昭16	七、〇〇〇	
97	皇道原理と絶対臣道	田崎仁義	昭18	五、八〇〇	
98	大石六夢物語	兵法弟子問	昭47	三、五〇〇	
99	剣道神髓と指導法詳説	西郷晋次	昭9	一、五〇〇	
100	居合道教範	無双直伝英信流	三谷義里	昭57	四、五〇〇
101	柔道	講道館編	布井書房	昭36	五、〇〇〇
102	蹄の音 限定版	金子有隣	昭37	五、八〇〇	
103	遊佐馬術	遊佐幸平	羽田書店	昭15	三、〇〇〇
104	趣味の乗馬と高等馬術	羽田書店	昭15	三、〇〇〇	
105	相撲道綜鑑	彦山光三	穴吹 弘	昭14	二、五〇〇
106	相撲道綜鑑	彦山光三	日本図書	昭52	七、五〇〇
107	相撲道綜鑑	元双葉山	時津風定次	昭31	二、〇〇〇
108	相撲道綜鑑	元双葉山	時津風定次	昭31	二、〇〇〇
109	本因坊丈和全集	全3巻	名人打碁大系	昭29	三、五〇〇
110	秀哉名人囲碁全集	全5巻	本因坊秀哉	昭24	二、〇〇〇
111	本因坊秀哉全集	全6巻	秀哉会	昭49	五、〇〇〇
	わたしの碁	全3巻	木谷実選集	昭42	二、〇〇〇

〒606 京都市左京区田中里ノ前町55

福田屋書店

電話(〇七五)七八一一三二六

1	名著複刻全集 精選新選特選三セツト	一、〇〇〇
2	近代文学館刊行(定価四十一万七千)	七、五〇〇
3	大日本年表 辻善之助 千支早見盤付	四、〇〇〇
4	徳川時代の文学と私法 中田薫 半狂堂	四、〇〇〇
5	明治能楽史序説 古川久	四、〇〇〇
6	同志社五十年史 カニヤ書店	五、五〇〇
7	青年之教育 中瀬古六郎	二、五〇〇
8	貧民心理之研究 賀川豊彦 警醒社	四、八〇〇
9	地上の星 新島襄物語 真下五一 限現社	三、〇〇〇
10	京都市土地賃賃価格表 上京之部	四、〇〇〇
11	ユダヤの人々 安江仙弘 研究社	二、八〇〇
12	猶太民族の世界的活動 渡辺巳之次郎	三、五〇〇
13	クルップ ベルドロウ 福迫勇雄	三、八〇〇
14	ヘネー 経済思想史上下 社会科学大系	四、五〇〇
15	ラブリオラ唯物史観研究 社会科学大系	四、五〇〇
16	バルト社会学体系論 波多野鼎	三、〇〇〇
17	階級及第三史観 初版 高田保馬改造社	大 11
18	社会組織と社会革命 河上肇 改造社	大 11
19	現代婦人の思想とその生活 山田わか	大 11
20	マルクス主義と教育問題 白田野矢 改造社	大 11
21	体育運動経営原論 宮田覚造 目黒書店	大 11
22	競技指導法 野口源三郎 同文書院	大 11
23	競技指導法 野口源三郎 同文書院	大 11
24	剣士内藤高治 大野熊雄 日本武俠社	大 11
25	英和寸鉄大観 大橋栄三 日英社	大 11
26	我は我 句仏俳句集 書物展望社	大 11
27	鮎の歌 立原道造 鎌倉文庫版	大 11
28	続日本郵便封皮帯紙及葉書 日本郵便	大 11
29	趣味のスタンブ集 舟橋金造 日本郵便	大 11
30	花みる心 上下 浅井敬太郎著作集	大 11
31	花木園芸 宮沢文吾(複製)	大 11
32	美の探求 園頼三 創文社	大 11

〒606 京都市中京区寺町通三条北

其 中 堂

電話(〇七五)二二二二二九七八
振替 京都 二二五三三八

1	講座仏教思想 七冊揃	七、〇〇〇
2	仏教思想	七、〇〇〇
3	般若思想史	七、〇〇〇
4	印度佛教史	七、〇〇〇
5	中国佛教史	七、〇〇〇
6	中国仏教史	七、〇〇〇
7	河内慧海他 四冊	七、〇〇〇
8	総覧不動明王	七、〇〇〇
9	現代密教講座第一巻 歴史編	七、〇〇〇
10	全 第二巻 思想編Ⅰ	七、〇〇〇
11	全 第四巻 行道編Ⅰ	七、〇〇〇
12	全 第五巻 行道編Ⅱ	七、〇〇〇
13	全 第六巻 美術編	七、〇〇〇
14	全 第七巻 文化編	七、〇〇〇
15	真宗新辞典 九冊揃	七、〇〇〇
16	定本親鸞全集 九冊揃	七、〇〇〇
17	東洋的無 元版	七、〇〇〇
18	禅と数学	七、〇〇〇
19	仏教大年鑑 昭和44年版(明治百年記念)	七、〇〇〇
20	中国哲学史	七、〇〇〇
21	訓註 禅林句集	七、〇〇〇
22	新纂 禅語集	七、〇〇〇
23	茶席の禅語	七、〇〇〇

〒606 京都市左京区田中大久保町22
(東大路電交差北)

山崎書店

電話(〇七五)七一七二四八
振替 京都 〇一八三六

1	ジェムス 心理学上下 今田恵詠	三、五〇〇
2	七大哲人 ルドルフ・ハイゼン	三、五〇〇
3	獨逸国民に告ぐ フロイト	三、五〇〇
4	思想の遍歴 ハクスレイ	三、五〇〇
5	実証的精神論 コンラート	三、五〇〇
6	科学者と詩人 ボアンカレ	三、五〇〇
7	詩のための詩 プラツドリ	三、五〇〇
8	未開社会の思惟 上下 レヴィ・ブリュ	三、五〇〇
9	天才と創造 グルゼンベルグ	三、五〇〇
10	実験心理学説イタリクロード・ルナール	三、五〇〇
11	シオベンハウエルとニイチエ ジンメル	三、五〇〇
12	ラ・プラタの博物学者 品切 ハドソン	三、五〇〇
13	マルクス主義芸術論研究 品切 フレヴィル	三、五〇〇
14	アミエルの日記(1-3) 河野典一	三、五〇〇
15	世界人類史物語 上下 コフマン	三、五〇〇
16	文化科学と自然科学 リックルト	三、五〇〇
17	ドイツ戦後学生の手紙 ヴェットコッパ	三、五〇〇
18	ドイッチェ戦争史 上下 久保正彰	三、五〇〇
19	仏蘭西文学史序説 フリッシャー	三、五〇〇
20	シエクスピアの非劇上下 フラント	三、五〇〇
21	チャールズ・ダーウィン エフ・ダウ	三、五〇〇
22	東西文芸評論 ラフカディオ・ベルン	三、五〇〇
23	ボオドレール伝 斎藤雄次郎	三、五〇〇
24	セム族の宗教 全2冊 W.ハートマン	三、五〇〇
25	ドイッチェ戦争史 上下 久保正彰	三、五〇〇
26	社会再組織の科学的基礎 コンラート	三、五〇〇
27	法と国家 レオン・デュゴン	三、五〇〇
28	通貨原理の研究 トマス・ストーン	三、五〇〇
29	吾妻鏡 四冊 龍蔵	三、五〇〇
30	菅原伝授手習鑑 守憲憲治	三、五〇〇
31	聲曲類纂 藤田徳太郎校訂	三、五〇〇
32	俗楽旋律考 上原六四郎	三、五〇〇
33	懷往事談 付新聞美照 福地源一郎	三、五〇〇

文 藻 堂

〒604 京都市中京区新烏丸通竹屋町上ル
電話(075)231-1914 振替 京都8-615

1 本居宣長 短冊

題 来不留恋
夕しほのさすかに絶す立れど
とまる夜はなき浦のあだ波

五〇、〇〇〇円



2 小沢芦庵 短冊

題 寂
霜のうへにあらみだれてあられ地の
しらあやしける庭かとぞみる

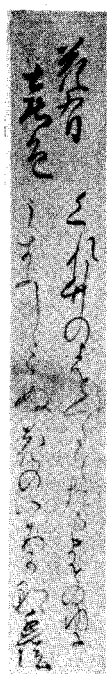
七、〇〇〇円



3 加藤千蔭 短冊

題 花有春色
くれ竹のよをへだてたるませのゆに
うきふしらぬ花のいろかな

八、〇〇〇円



4 村田春海 短冊

題 雲
ゆくへなきものとや雲をよに見む
ありはつまじき人のこの世に

八、〇〇〇円



5 藤井高尚 短冊

はつ春の初みかぐらにましらひて
あかすもきくかうた人の歌

二二、〇〇〇円



6 本居大平 短冊

題 禁中
御簾にふく風のゆき、もこま犬の
まもりかしこき九重のうら

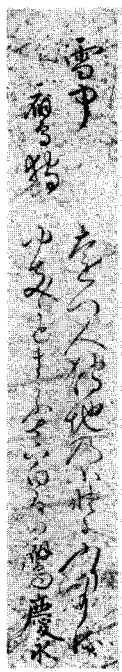
七、〇〇〇円



7 松平慶永 短冊

題 雪中懷持
遠つ人狩地の小野にふりつもる
ゆきかたまたま一葉白ふの塵

七〇、〇〇〇円



8 伴林光平 短冊

題 早春柳
世の人のこゝろを春にひくものは
〇〇のさとのやなき也けり

一八、〇〇〇円



9 太田垣蓮月 短冊

題 龜
万世もたえぬながれとしめつらん
その龜の尾の山の下水

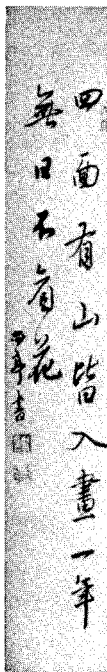
四〇、〇〇〇円



10 川合尚亭 短冊

題 四面有山皆入畫一年無日不香花

一〇、〇〇〇円



11 金原明善 短冊

三日不讀書語寒無味(85才書)

八、〇〇〇円



12 僧澄月 短冊

題 名所山

七、〇〇〇円



13 大國隆正 短冊

題 井納涼

七、〇〇〇円



14 脇坂安斐 短冊

題 嶺上雲

三、〇〇〇円

15 黒川真頼 短冊

題 新樹露

五、〇〇〇円

〒600 京都市下京区寺町通り五条上ル

藤井文政堂

電話(〇七五)三五一九三三
振替 大阪 七一一一五一

- 1 元版四童子三昧経巻中 一卷 六、〇〇〇
- 2 春日版大般若経 開板抄芳南北朝播州鶴林寺蔵一卷 三、〇〇〇
- 3 彦御山宝印版本 室町期 22×26 一枚 四、〇〇〇
- 4 上端に三羽の鷹を配す。国史大辞典(5)牛玉宝印 105図と同版か中に二ツ割れ破損あれど完全品
- 5 弘法大師御俗姓之系図 慶長十五年一枚 高野山清浄寺蔵
- 6 大峰山 本堂受講 岩野安次郎筆「神変大菩薩」一幅 六、〇〇〇
- 7 大峰山 本堂受講 岩野安次郎筆「神変大菩薩」一幅 六、〇〇〇
- 8 和訓法華経 文化頂写本 大本八冊 一〇、〇〇〇
- 9 徳本上人自筆御名号 文化頂写本 一本 八、〇〇〇
- 10 釈氏根元記 無名子編輯 写本半紙 二、〇〇〇
- 11 高野建立初結界時啓白文 高野山常喜院大4一卷 二、〇〇〇
- 12 科註十住心義林 活版 大本三冊 五、〇〇〇
- 13 台門行要抄 芝金聲堂 昭14 九、〇〇〇
- 14 善惡種蔕鏡和讃 天保十三刊 半紙 二、〇〇〇
- 15 神靈考 中村長平 明6半紙 三、〇〇〇
- 16 松園画為広賛「外骨舞狂歌画賛」 一幅 二、〇〇〇
- 17 松井端庵一行書 出雲の儒者 一幅 八、〇〇〇
- 18 冷泉為恭自筆画賛「なりひら大いけり汚れ有り大懷紙一枚 墨、〇〇〇
- 19 高瀬惺軒博士自筆漢詩文及書簡一括約七十枚 五、〇〇〇
- 20 昭和十九年頃から二十二年までの戦局時事を詩う博士の憶をしる貴重な資料
- 21 豊蔵坊信海筆短冊 表具美 箱入一幅 三、〇〇〇
- 22 新古今和歌集抄 大鳴聖風筆 一卷 三、〇〇〇
- 23 中国仏教の旅 写真集 美及美 B5全5冊 七、〇〇〇
- 24 日本石仏 国書刊行会(地蔵院欠コピー補) 全十冊 四、〇〇〇
- 25 仏具大辞典 鎌倉新書(定価三、〇〇〇円) 昭57 三、〇〇〇
- 26 仏事大鑑 宇野弘願編(定価三、〇〇〇円) 昭58 六、〇〇〇
- 27 仏教二千四百年 写真集 横山宗一郎 昭59 四、〇〇〇
- 28 仏陀の旅 インド・ネパール仏跡紀行 朝日新聞 一六二 三、〇〇〇
- 29 チベット 写真集 一六二 三、〇〇〇

〒604 京都市中京区壬生下溝町七一

(仏光寺通西新道東入)

京極書房

電話(〇七五)三一五一五六〇

- 1 日本国民生活の発達 内田銀蔵 昭16 一、〇〇〇
- 2 遊華思想 史研究 生活と社会 タイトル欠 堀一郎 昭17 三、〇〇〇
- 3 永遠の回想 堀一郎 昭19 三、〇〇〇
- 4 古代研究一 民俗学篇 堀一郎 昭39 四、〇〇〇
- 5 農と民俗学 哲口信夫 昭4 四、〇〇〇
- 6 塩と民族 倉田一郎 昭19 二、〇〇〇
- 7 海上の道 時雨音羽 昭19 一、〇〇〇
- 8 先祖の話 柳田国男 昭37 二、〇〇〇
- 9 先祖の話 復刻 矢部善三 昭4 四、〇〇〇
- 10 年中事物考 奥附欠 池田源太 昭38 六、〇〇〇
- 11 伝家文化論考 郷土旅行双書 高田十郎 昭15 一、〇〇〇
- 12 郷土の伝説 川合勇太郎 昭18 一、〇〇〇
- 13 随筆民話 荒木博之編 昭47 三、〇〇〇
- 14 青森県の昔話 稲田立石編 昭48 二、〇〇〇
- 15 甕島の昔話 西堀杜史 昭49 一、〇〇〇
- 16 信濃民話史 酒井朝彦 昭36 一、〇〇〇
- 17 新信濃むかし話 武井武雄画 昭19 二、〇〇〇
- 18 北安曇郡郷土誌稿 2、口碑伝説篇 松平光 昭5 七、〇〇〇
- 19 祭 本質と諸相 橋浦泰雄 昭21 六、〇〇〇
- 20 月ごとの祭 藤林貞雄 昭35 一、〇〇〇
- 21 性風土記 其記念会 昭34 一、〇〇〇
- 22 古橋先生 東西文化史論双 昭48 七、〇〇〇
- 23 船載書目 宮内庁書陵部蔵 関大学術研二冊 昭47 二、〇〇〇
- 24 唐船進港棹録・割符留帖 大庭脩 昭49 六、〇〇〇
- 25 島原本唐風説書 関西大学東西学術研 昭48 八、〇〇〇
- 26 影江軟芳閣書画記 出版部 昭56 七、〇〇〇
- 27 研究 創立三十周年記念論文集 三浦新七 昭25 二、〇〇〇
- 28 東西文明史論考 国民性の研究 幸田成友 昭15 二、〇〇〇
- 29 史話 東と西 齊藤阿貝 昭17 一、〇〇〇
- 30 西洋文化と日本 浜田青陵 昭17 一、〇〇〇
- 31 東西文明の黎明
- 32 東西文明の黎明

〒600 京都市下京区七条通堀川角

谷書店

電話(〇七五)二六二二七六九五
振替 京都 一一七九

奈良絵断簡 各 20,000円

〒604 京都市中京区河原町通三条上ル
(朝日会館前)

キク才書店

電話(〇七五)二二一七六三四
振替 京都 八一七六四〇

●仏教書特集

1	祖堂集索引	京大人文研	三冊揃	昭55	59	100	000
2	講座・仏教	大蔵出版	七冊揃	昭34	8	500	
3	現代仏教講座	角川書店	五冊揃	昭34	8	500	
4	日本仏教史	法蔵館	三冊揃	昭40	2	000	
5	鈴木大拙全集	岩波書店	三冊揃	昭43	7	000	
6	仏教思想研究	宇井伯寿	三冊揃	昭41	7	000	
7	仏教思潮	龍谷・大正大学交換論文集	昭13	49	1	000	
8	西蔵仏教研究	長尾雅人	昭49	6	000		
9	緬甸仏教	ビガンデー	昭3	1	000		
10	原始仏教の実践哲学	和辻哲郎	初版	昭2	1	000	
11	大乘起信論の研究	望月信亨	昭11	3	000		
12	大乘莊嚴論研究	宇井伯寿	昭36	7	000		
13	現代意識 楞伽經	三井品史	昭10	2	000		
14	新訳 法句經	里見達雄	昭11	3	000		
15	釈迦牟尼と女性	宮崎真	昭39	3	000		
16	一心仏教信仰談	小川独笑	昭14	8	500		
17	皇室と寺院	佐野恵作	昭14	8	500		
18	聖徳太子論纂	平安考古会編	昭14	8	500		
19	鎌倉仏教の展開	笠原一男編	昭42	7	000		
20	明治高僧伝	増谷文雄	昭10	3	000		
21	日本仏教の宗派(二)	講座仏教七巻(大蔵)	昭42	7	000		
22	伝教大師伝	三浦周行(改訂)御遠忌事務局	昭42	7	000		
23	伝教大師伝	三浦周行編	京都考古会	昭2	1	000	
24	法華経と伝教大師	山田恵諦	第一書房	昭48	3	000	
25	恵心僧都の研究	坂田良弘	山喜房	昭13	1	000	
26	真言哲学(仏教全書)	小野藤太	明38	4	000		
27	新弘法大師伝	宮崎忍勝	大法輪周	昭48	2	000	
28	空海の軌跡	佐和隆研	毎日新聞	昭42	1	000	
29	興教大師伝(史料全集・伝記編)	後潤閣	昭17	8	500		
30	雲華上人遺稿	赤松翠陰編	昭8	6	000		
31	修験道の発達	村上俊雄	昭18	6	000		
32	修験道の歴史的考察	新田正信編	昭50	2	000		

33	東北霊山と修験道(山岳宗教史研究叢書)	改訂浄土の教義と其教団	石井教道	昭52	5	000	
34	浄土の教義と其教団	石井教道	昭47	3	000		
35	龍心妙果帖	坂田良弘(表紙少ムレ)	昭11	3	000		
36	禪定思想史(東洋思想叢書)	増永靈鳳	昭19	3	000		
37	融通念仏縁起の研究	田代尚光	昭51	5	000		
38	真宗玄義	稲垣瑞樹編	永田文昌堂	昭51	5	000	
39	親鸞の哲学と信仰	寺田弥吉	雪華社	昭38	1	000	
40	親鸞聖人行実	教学研究所	昭45	3	000		
41	親鸞聖典	菊村紀彦編	東京堂	昭51	5	000	
42	歎異抄講座	教学研究所	四冊揃	昭51	5	000	
43	本願寺史料研究所	三冊揃	昭48	3	000		
44	南無阿彌陀仏の心	大谷光紹	春秋社	昭43	1	000	
45	龍谷大学英訳經典シリーズ	歎異抄(昭37)	三、八〇〇				
46	教行信證(昭41)	四、五〇〇					
47	死の解決 稲葉瑞樹	浄土和讃(昭40)	三、八〇〇				
48	法城を護る人々(小説)	松岡譲(汚)	三冊揃	昭50	3	000	
49	日蓮聖人と日蓮宗	鈴木一成編	平楽寺	昭43	1	000	
50	日蓮聖人正伝	吉川弘文館	昭43	1	000		
51	大國聖日蓮上人	田中智学	春秋社	昭4	2	000	
52	日蓮聖人遺蹟鑑	竹下宜深	昭26	4	000		
53	日蓮主義の常識	中川日史(赤線多)	昭45	1	000		
54	日蓮とその門弟	高木豊	弘文堂	昭40	6	000	
55	法華経の行者日蓮	姉崎正治	春秋社	昭47	1	000	
56	日蓮と法華経(講座日蓮第一巻)	春秋社	昭44	4	000		
57	法華思想	横超慧日編	平安寺書店	昭44	4	000	
58	現代語の法華経	庭野日敬	佼成出版	昭54	5	000	
59	國訳法華經逸伝	音馬美藏編	平楽寺	昭5	5	000	
60	講座 禅	筑摩書店	八冊揃	昭42	1	000	
61	禅要鑑	相沢恵海	明40	2	000		
62	禅門法語集(正編)	山田孝道編(背痛)	明32	5	000		
63	禅語字彙	中川洪庵	森江書店	昭36	3	000	
64	禅のすべし 修行生活法	美鈴木大拙監	昭48	3	000		
65	禅の教養	禅話叢書刊行会	昭14	3	000		
66	日本禅師傳傑伝	菅原洞輝	大13	4	000		
67	禅大師の生涯と芸術	創元社	昭19	2	000		
68	道元の研究	秋山範二	昭22	3	000		
69	道元の研究(改訂版)秋山範二	黎明書店	昭40	4	000		
70	道元禅師伝の研究	大久保道舟	昭46	3	000		
71	道元禅師と行	秋山範二	山喜房	昭15	2	000	

72	孤雲懷持禅師	二祖回師大遠忌向	昭55	2	000		
73	大智禅師偈頌辨解	峯玄光	昭51	2	000		
74	禅の巨匠に学ぶ	田中忠雄	誠信書房	昭43	1	000	
75	正法眼蔵釈意(一)解説篇	山喜房	昭43	1	000		
76	正法眼蔵参究(山水経篇、谿声山色篇)	泰山房	昭47	4	000		
77	無門関	南天樺老師提唱	泰山房	昭47	4	000	
78	無門関解	紀平正美	昭31	7	000		
79	無門関独唱	安谷白雲編	三興隆合	昭46	1	000	
80	無門関提唱	山本玄峰	大法輪周	昭46	1	000	
81	碧巖録新講和	井上秀美	京文社	昭46	1	000	
82	碧巖物語	山田無文	大法輪周	昭46	1	000	
83	菜根譚詳解講義	久保保二	金剛芳流堂	昭43	1	000	
84	白隠禅師毒語心経講和	後藤瑞蔵老師述	昭33	2	000		
85	白隠と遠羅天釜	野村瑞城	人文書院	昭12	2	000	
86	盤珪国師伝	細田源吉	北海出版	昭17	3	000	
87	盤珪禅師説法	鈴木大拙解説(吉田紹欽校訂)	昭16	3	000		
88	盤珪の日本禅	丁字屋	昭16	3	000		
89	不生禅 盤珪禅師語録の色説	春秋社	昭37	4	000		
90	不生禅 盤珪禅師語録の色説	熊本教育会	昭4	4	000		
91	蓮乃露 良寛物語	フィッシュヤイ	昭38	1	000		
92	白隠禅師坐禅和讃講義	山田無文	昭39	1	000		
93	むもん法話集	山田無文	春秋社	昭51	1	000	
94	むもん関講話	山田無文	春秋社	昭47	1	000	
95	観音巡礼 坂東札所めぐり	文一出版	昭45	7	000		
96	芭蕉と仏教	佐藤園	桜楓社	昭45	7	000	
97	仏教人生観	南条文雄	中央出版	昭47	6	000	
98	仏教医学詳説	福永勝美	雄山閣	昭47	6	000	
99	仏教と酒	藤原曉三	少年禁酒車	昭8	8	000	
100	僧侶の生活	西田天香	春秋社	昭10	2	000	
101	屋敷神の研究	直江廣治	昭52	6	000		
102	村落同族祭祀の研究	竹田聰洲	昭52	6	000		
103	祖先崇拜の研究	前田卓	青山書院	昭40	5	000	
104	沖繩のシヤムニズム	桜井徳太郎	昭55	5	000		
105	祭儀習俗の研究	赤田光男	弘文堂	昭55	5	000	
106	迷信	新成新蔵	興学会	昭35	5	000	
107	関東棟形像	堀口蘇山(限定版)和装	昭42	5	000		
108	俗信芸術	伊藤堅吉(署名入)	昭42	5	000		
109	富士山麓郷愁の民俗	伊藤堅吉	昭43	3	000		
110	回教史 アミール・アリ	善隣社	昭17	6	000		

〒603 京都市北区小山下内河原町六三三

電話 (〇七五) 四九一—三〇七二

71	尋常小学校地理書	卷一・二	文部省	昭14	三,〇〇〇
72	高等小学校地理書	卷二	文部省	昭17	一,五〇〇
73	朝鮮史研究會論文集	二集	朝鮮史研究会	昭16	三,〇〇〇
74	裁縫の栞	白田ゆき	朝鮮史研究会	昭11	三,〇〇〇
75	中等 立体的幾何学問題通解	集文館編	朝鮮史研究会	昭11	三,〇〇〇
76	カズノホン	二・三	モンブシヤウ	昭19	四,〇〇〇
77	女子 日本史教科書上級用	檢定済	三浦周行	昭19	三,〇〇〇
78	女子 東洋史教科書附圖	下村三四吉編	文部省	昭12	二,〇〇〇
79	初等科算数	五	文部省	昭12	二,〇〇〇
80	女子 実学陶治実践体系	大久保勇市	文部省	昭12	二,〇〇〇
81	高等小学読本	卷一・二女子用	文部省	昭12	二,〇〇〇
82	暫定中等歴史一	文部省	文部省	昭12	二,〇〇〇
83	朝鮮語の先生	崔	在翊	昭21	三,〇〇〇
84	中学生	二九卷一	一	昭21	六,〇〇〇
85	福岡市学事要覽		研究社	昭20	二,〇〇〇
86	福岡市案内		福岡市役所	昭20	二,〇〇〇
87	別府市勢要覽		福岡市役所	昭20	二,〇〇〇
88	福岡市社会事業一覽		福岡市役所	昭20	二,〇〇〇
89	海軍大演習觀艦式記念絵はがき		福岡市社会課	昭7	三,〇〇〇
90	記念切手付五枚付		横浜市役所	昭7	八,〇〇〇
91	舞鶴地図	六千分の一	舞鶴町役場	昭7	三,〇〇〇
92	陸軍写真帖	科学知識付録		昭8	二,〇〇〇
93	宝塚少女歌劇脚本集	85号		昭3	三,〇〇〇
94	少年赤十字	一卷二	勝屋英造編	昭10	三,〇〇〇
95	カメラの駿河路		静岡市観光協会	昭10	二,〇〇〇
96	遊覽の京都	松本竜太郎		昭2	二,〇〇〇
97	生ける豊太閤	鳥井寿山人		昭15	二,〇〇〇
98	文芸講演集	松本順吉編		昭39	五,〇〇〇
99	舞鶴		舞鶴町役場	昭7	二,五〇〇
100	南満洲鉄道案内	裏表紙イタミ		昭42	五,〇〇〇
101	潮	12巻7・8・10	鐵道車輛技術雜誌	昭7	八,〇〇〇
102	サウンド	2・3号	トーキー研究会	昭7	八,〇〇〇
103	漫画学校	まつやまふみお	初版	昭25	一五,〇〇〇
104	短歌と青年	二巻二	友田隣太郎編	昭22	三,〇〇〇
105	短歌季刊	創刊	東京歌話会	昭22	二,〇〇〇
106	芸苑往來	木村莊八	表附イタミ	昭22	二,〇〇〇
107	大阪陣	福本日南	初函	昭19	四,〇〇〇
108	新訂海の探究史	宇田道隆		昭19	三,〇〇〇

- | | | |
|---|------|----------|
| 1. 絹織研究 A.Y.Ali 著 キャリコ博序文 123頁 | 1974 | ¥5,000 |
| 2. カマカラ：歡喜仏 M.R.Anand 著 45頁, 58図 Nagel 刊 | 1985 | ¥15,000 |
| 3. 仏教芸術 M.Anesaki 著 73頁, 47図 Hacker 刊 | 1978 | ¥15,000 |
| 4. 学生のサンスクリットー英語辞典 V.S.Apte 編 664頁 Delhi | 1973 | ¥7,000 |
| 5. Dunhuang 芸術宝蔵 Dunhuang Institute 200図 香港 | 1981 | ¥17,000 |
| 6. ギメ美術館の珍品 J.Auboyer 序文 122頁 71図 N.Y.G.S. | 1975 | ¥7,000 |
| 7. 仏陀 伝記伝説図史 J.Auboyer 著 271頁 New Delhi 刊 | 1981 | ¥11,000 |
| 8. Baltiska Foerlagets Populaervetenskapliga Serie 3冊 | | ¥50,000 |
| ● En Faerd Till Indien C.A.C.Lewenhaupt 著 258頁 | | |
| ● Var Joad, I & II H.Wallengren 著 258+264 頁 malmo 1928. 29年刊 | | |
| 9. 中央アジア芸術 C.Bhattacharya 著 北部絹の道 160頁+60図 Delhi 1977 | | ¥6,000 |
| 10. インド工芸技巧と意匠 E.Bhavnani 著 108頁 10000デザイン Bombay | | |
| | 1974 | ¥7,500 |
| 11. アジア的芸術 L.Binyon 74頁文, 110図 Cosmo 刊 | 1981 | ¥7,500 |
| 12. 日本奥地紀行 J.F.Bishop 著 483頁 56図 London 1900刊 | | ¥28,000 |
| 13. 中部セイロン考古 J.Boisseler 著 206頁 64図 Nagel 刊 | 1979 | ¥6,000 |
| 14. ネパール P.C.Bossu 216頁 150色図 Paris | | ¥12,500 |
| 15. 極東 P.Bonnetain 613頁 図版多 Paris 刊 背角革 | 1887 | ¥60,000 |
| 16. 日本の記号と印章 J.L.Bowes 著 379頁 図版多 London | 1882 | ¥50,000 |
| 17. 織物のろうけち染 A & F.Buhler キャリコ博 122頁 76図+15色図版 | | |
| | 1977 | ¥5,000 |
| 18. インドの絞染織 A & F.Buhler 他著 キャリコ博蔵 159頁文 12色図+80図 | | |
| | 1980 | ¥16,000 |
| 19. オリッサとアンダラパラデシュの絹 C.Moti 著 キャリコ博 189頁 136図, 色有, 33絹見本付 | | |
| | 1974 | ¥10,000 |
| 20. 東洋芸術に於ける仏陀 W.Cohn 著 253頁 約100図 Leipzig | 1925 | ¥30,000 |
| 21. 中世 Sinhalese 芸術 A.K.Coomaraswamy 340頁 53図版+1150挿図 Essex House | | |
| 1908刊 425部 限定番号入出版 初版 | | ¥120,000 |
| 22. イスラム建築, 芸術, 工芸の關係書目 K.A.C Creswell 著 1330頁, 在カイロ米大学刊 | | |
| | 1978 | ¥90,000 |
| 23. チベットー英語辞典 (サンスクリット類義語付) S.C.Das 編 1353頁 Delhi | | |
| | 1979 | ¥7,000 |
| 24. Buddhist Hybrid Sanskrit Grammer and Dictionary 2vols 卷1:文法 240頁 卷2:辞典 628頁 Delhi | | |
| | 1970 | ¥18,000 |
| 25. Kunst Ferner Laender 東洋芸術 W.& B.Forman 著 322頁, 約200図 色図多し Artia 刊 | | |
| | 1957 | ¥8,000 |
| 26. フランスーアジア 文化雑誌 Feb-Juin, 1959, 合本1024頁 110図 Saigon 1959 | | ¥15,000 |
| 27. 日本の木版画 L.Hajek 著 102頁+50色図 ハナウ刊 | 1957 | ¥8,000 |
| 28. 歌麿：日本の肖像木版画 L.Hajek 著 86頁+58色図 ハナウ刊 | 1958 | ¥8,000 |
| 29. 中国芸術 L.Hajek 著 114頁 238図, 6色図 独文, チエコ | 1955 | ¥20,000 |
| 30. インド M.Hallade 著 277頁 180図 独文, スイス | 1975 | ¥10,000 |
| 31. 周代中国古青銅器 W.Heusdan 著 193頁 63図 東京, 私家版4部, 限定番号本 | | |
| | 1952 | ¥25,000 |

〒600
京都市下京区仏光寺通東洞院角

シルヴァン書房

電話(〇七五)三四一七八三
振替 京都 一七九三三八

幣店在庫目録発行「美術洋古書一九八五年秋冬号」約一三〇〇冊記載

御希望の方は御申込み下さい。 切手可(送料共三五〇円)

菜湛然居士文集譯

飯田利行訳著／蒙古帝国チンギス汗、オゴタイ汗に仕えた、草原の名宰相。耶律楚材は、稀代の禪者として湛然居士の号を賜わった。離都幾千里の軍幕の中で平安を希求する真情を吐露したこの救国の大詩人の詩文集を書下し、現代語訳を添える。 テキスト付・18000円

日蓮宗行事日鑑

石川教張編／寺院行事・信仰の記録を日蓮宗の歴史に書き加えるための大日鑑（寺誌）。一日ごとに「宗祖のことば」「日蓮宗の歴史」「行事」が示され、布教活動に忘備録に活用できる。特製美麗バインダー綴。補充用紙・クリアファイル付。 全四巻・揃定価48000円

平安鎌倉室町家族の研究

高群逸枝著・栗原弘校訂／名著『招婿婚の研究』の実証篇、10年にわたる校訂作業を経て刊行。各時代における個々の家族の婚姻居住形態の解明を主目的に、藤原冬嗣流篇・五撰家篇・一般公家篇の3部構成で62家族について論述した。 ●16000円

栄花物語研究 第一集

山中裕編／藤原道長の出世物語である『栄花物語』をめぐる諸問題について、『栄花物語』研究の権威である編者を中心とする歴史物語研究会の成果をまとめた論文集。その第一集には「栄花物語の編纂と年記表現について」（山中裕）他六論文を収録。 ●5000円

*小社の書籍は注文制です。書店にご注文下さい。 国書刊行会 〒170 東京都豊島区巣鴨3-5-18 電話03(917)8287

〒一五二 東京都目黒区平町一―一六―六

電話〇三―七二四―八〇三一

内容見本請求はF〇係まで
全国へ無料配達
代金は後払い

名著
普及会

戯曲小説近世作家大観 鈴木行三編 全一冊	13,000
対訳源氏物語講話 島津久基著 秋山虔解題 全六冊	33,000
増註源氏物語湖月抄 北村季吟著 三谷栄一増補 全三冊	34,000
皇室文学大系 豪華版（旧名 列聖全集） 合本四冊	110,000
新校群書類従解題集 名著普及会研究開発部編 全一冊	14,000
頼山陽書翰集 徳富蘇峰、木崎好尚、光吉澆華編 全三冊	35,000
良寛和尚遺墨集 相馬御風編 和本全一冊	35,000
哲学字彙 井上哲次郎ほか編著 飛田良文解説 全三冊	24,000
日本大辞書 山田美妙著 全一冊	28,000
日本語源 賀茂百樹著 全一冊	22,000
語源辞典東雅 新井白石著 全一冊	14,000
漢英対照いろは辞典 高橋五郎著 全一冊	25,000
日本外来語辞典 上田萬年 高橋順次郎ほか編 全一冊	8,000
外来語研究 外来語研究会編 全一冊	22,000
サンスクリット語辞典（シュミット補遺） 全一冊	21,000
ペルシア語英語辞典 アリアンプールほか編 全一冊	48,000
支那仏教の研究 常盤大定著 全三冊	23,000
支那基督教の研究 佐伯好郎著 全五冊	38,000
景教の研究 佐伯好郎著 全一冊	3,000
中国文化界人物総覧 橋川時雄編 全一冊	25,000
作法資料漢詩講座 臨江詩閣編 全一冊	15,000
漢詩名詩評釈集成 吉田増蔵 木下彪ほか著 全二冊	18,000
漢詩近代名詩研究集成 尾上柴舟 館森袖海ほか著 全一冊	13,000
補正朝陽字鑑（普及版） 高田竹山編著 全五冊	78,000
古籀篇 高田竹山著 和本全一四冊	10,000
集古十種 松平定信編 全四冊	28,000
日本欧字・海外邦字新聞雑誌史 蛸原八郎著 全二冊	33,000

近刊

五山禪林宗派圖

玉村竹二著

●B5判・四二〇頁／定価一五、〇〇〇円
 禪宗史研究の第一人者が、永年の研究成果を基に、五山禪林の宗派図を体系的にまとめた画期的な一書。
 (内容目次) 解題と凡例／宗派綱要(諸源)／中国伝法／五山禪林宗派図(八十一項目)／関山派印証系譜／道号検索／法諱(下字) 検索／道号・法諱異称対照表

住友史料叢書 年々帳 無番・一番

小葉田淳監修・住友修史室編集

●A5判・二二八頁／定価七、五〇〇円
 住友修史室架蔵の記録文書の中から重要な記録類を年一冊継続刊行。第一期全六冊。本冊には、銅貿易に関する現存最古の史料二篇を収録。

朝鮮医事年表

三木榮編著

●A5判・五九〇頁／定価二〇、〇〇〇円
 朝鮮の医学・医療・疾病関係の事項を、原典に依拠し、有史以来一九四五年来まで収録。又朝鮮と日本・中国・西洋との医事交流についても力点を置き、各事項の終わりに原典名をあげて典拠を明記。

大坂医師番付集成

中野操編 番付四五種(原寸及び縮小複製)／和紙使用オフセット製版印刷／別冊索引・解説／B6判・二二〇頁／定価一五、〇〇〇円
 中野操博士が半世紀にわたって蒐集された、寛政期から明治に至る医師番付を中心に、現在判明している番付の全てを影印版で再現。別冊として人名索引及び詳細な解説を付す。

紙のふるさとを行く 好評発売中

歴史の中の和紙のはなし

町田誠之著

●A5判・三〇四頁／定価二一、八〇〇円
 日本の風土と文化の中で重要な役割を果たしてきた和紙は、どのように使われ、何が残されてきたのか。飛鳥・奈良・京都の歴史の名所六十余箇所を訪ね、和紙をめぐる文化的歴史の足跡を平易に明かした案内書。関係写真多数収録。

姉妹篇 和紙文化

町田誠之著

●定価二一、三〇〇円
 高分子化学を専門とする著者が、科学者の立場から和紙文化の歴史をわかりやすく記述した科学随想集。

思文閣出版

本社 京都市左京区田中関町2-7
 〒606 (075) 751-1781

支社 東京都千代田区三崎町2-20
 〒101 (03) 263-6348

大谷大学図書館蔵

影印 西藏大藏經

北京版 總目錄・索引全一冊

〈特色〉

「西藏大藏經」の本書利用に不可欠な目録及び索引の、新装縮刷版。大谷大学監修の下に初版時の誤植を正し、さらに活用の便を図った研究者必携の一冊。

〈内容〉

●本巻二二巻、続編二三巻の総目録
 ●経題・著者・訳者の各項が蔵・梵・漢の三語から検索可能(索引)
 ●ツォンカバ全書 チャンキヤ全書の目録収録
 ●経題のほか章(品)名に至るまで詳細に記載

■体裁 B5判／擬革背つきクロス装・函入／総二二六頁
 ■定価 二二、〇〇〇円

F・エジャートン 編

仏教混淆梵語 文法および辞典

仏教混淆梵語にあらわれる文法的・語彙的な非サンスクリット要素のみを収録。仏教原典研究者必備の一冊。
 ▼菊判変型・総九〇八頁・極上クロス装／全二冊 定価一九、〇〇〇円

北川秀則 著

インド古典論理学の研究

陳那の体系

インド古典論理学の大成者陳那の体系を、その主著「集量論」に基づき明らかにした。第一巻「理論篇」第二巻「集量論」の和訳解説と注釈／付索引(昭和48年・第二版の復刻)
 ▼B5判・総六一六頁・極上クロス装函入／定価一三、〇〇〇円



臨川書店

本社 〒606 京都市左京区今出川通川端東入50M
 支社 〒101 東京都千代田区神田駿河台2-11-16

TEL (075) 721-7111
 TEL (03) 293-5021